

2.観光を取り巻く市場環境と課題

2-1. 市場環境

(1) 人口減少・高齢化

2015年の国勢調査では、日本の総人口は127,095千人で、2010年に比べ963千人減少し、1920年の調査開始以来、初めての人口減少となりました。また、高齢化もさらにすすみ、総人口に占める割合を2010年と比べると、15歳未満人口は13.2%から12.6%に、15～64歳人口は63.8%から60.7%に低下し、65歳以上人口は23.0%から26.6%に上昇しています。

また、東京都をはじめ都市部には人口が集中し、多くの地方都市では若年層の流出に歯止めがかけられず人口減少に苦しむ状況となっています。高齢化は一層深刻なものとなり、事業従事者の減少並びに事業承継者の減少、さらに、空き家や空き店舗、学校跡地の増加による景観の悪化など、人口減少と高齢化は、観光産業にも影響を及ぼしています。将来的には、少子高齢化による国内旅行市場の縮小も懸念されるところです。

(2) 訪日外国人旅行者数の増加

訪日外国人旅行者の増加により、国内の観光地は多様な文化習慣、宗教等への対応を求められるようになってきました。また、個人旅行化の進展による標識や案内表示、パンフレット等の多言語化や観光産業への外国人従事者の起用など、受入環境の整備を求められるようになってきています。

(3) 高度情報化社会の進展

進展する高度情報化社会は、旅行の予約・決済環境のICT化や、情報収集の簡便化による訪問先決定の間際化、SNS、口コミサイト、価格比較サイトによる情報収集・発信の自由度拡大などの傾向を増幅させ、これに対応する観光事業者の努力が求められるようになってきています。

(4) 旅行目的の細分化・多様化

観光資源の対象範囲が景観や温泉、食といったこれまで多くの観光客が求めてきた観光資源から、体験や人との交流といった新たな価値観のもとで求められる幅広い資源へと拡大してきています。民泊や簡易宿所ニーズも伸びてきており、また、趣味を中心とした旅行やひとり旅などの増加もみられ、これらの多様なニーズへの対応が求められるようになってきました。

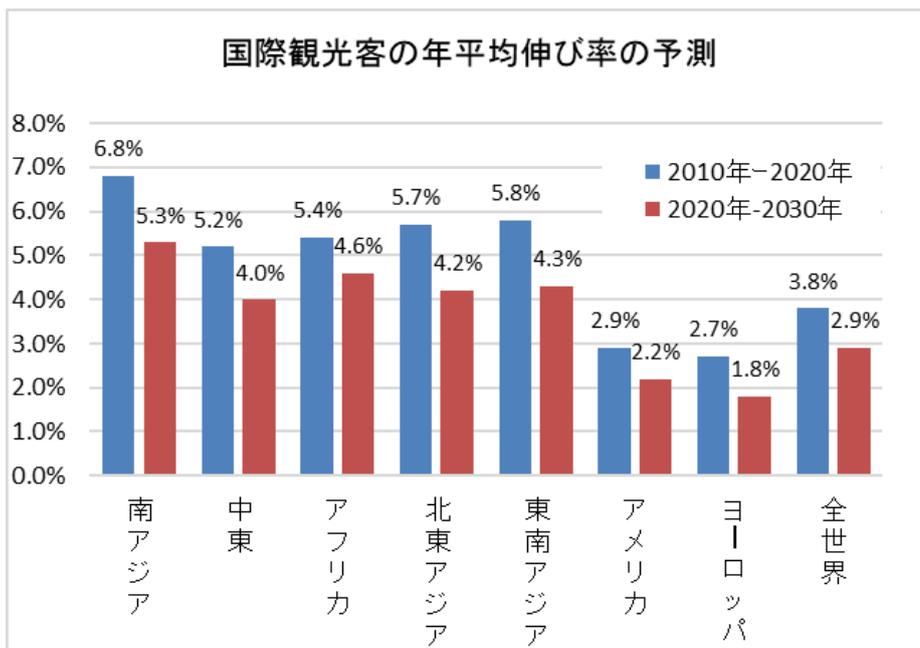
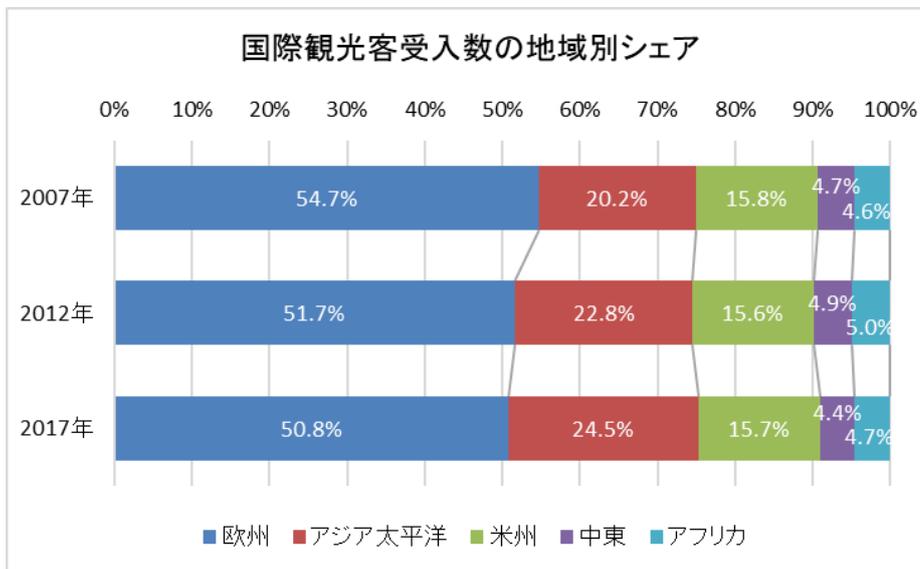
(5) 安全意識の高まり

近年、地震や火山の噴火、台風や集中豪雨による土砂災害などの災害が続き、その影響による交通機能マヒなどによって観光産業にも影響を及ぼすケースが増えてきました。災害発生時の観光客の安全・安心の担保が観光事業者側に求められるようになり、災害・事故後の早期復興に向けた事前の体制構築の重要性も高まっています。

2-2. 観光マーケットの動向

(1)世界の観光動向

グローバルな国際間の交流人口は急増し、ツーリズム産業（観光産業）の波及効果が注目されています。特にアジア・太平洋地区は力強い成長が予測されます。

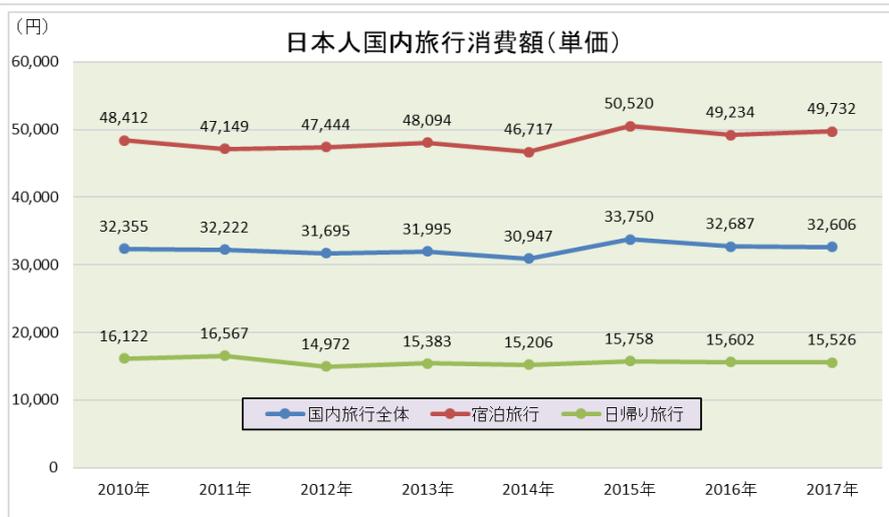


出典：「2018年度版観光白書」（観光庁）より作成

(2) 国内旅行の動向

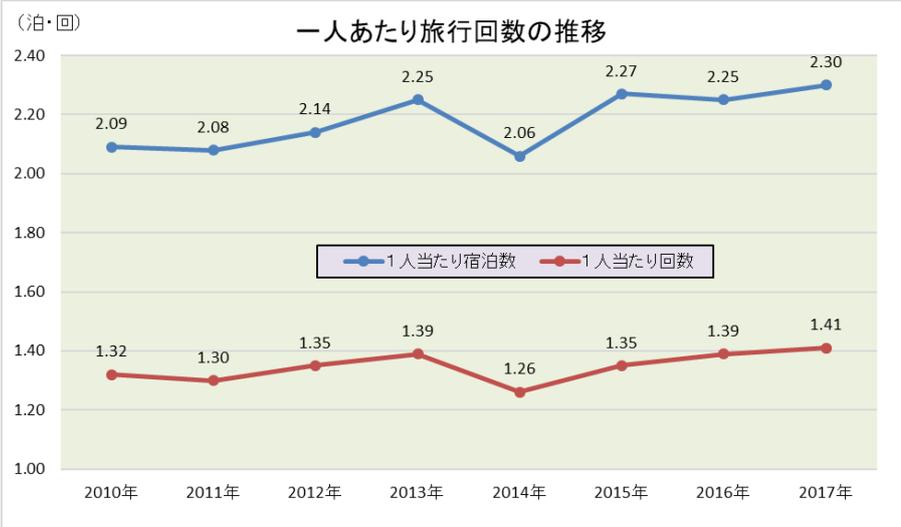
① 日本人の国内旅行宿泊者数と消費額

日本人の国内旅行は横ばい傾向にありましたが、2014年以降若干上昇しています。それに伴い国内旅行の消費額も向上していますが、特に宿泊旅行の単価上昇による影響が大きいものと想定されます。



出典：「2018年度版観光白書」(観光庁)より作成

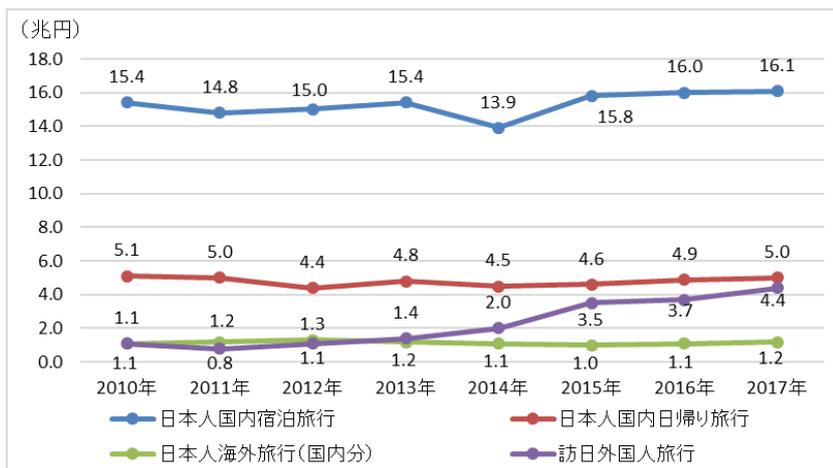
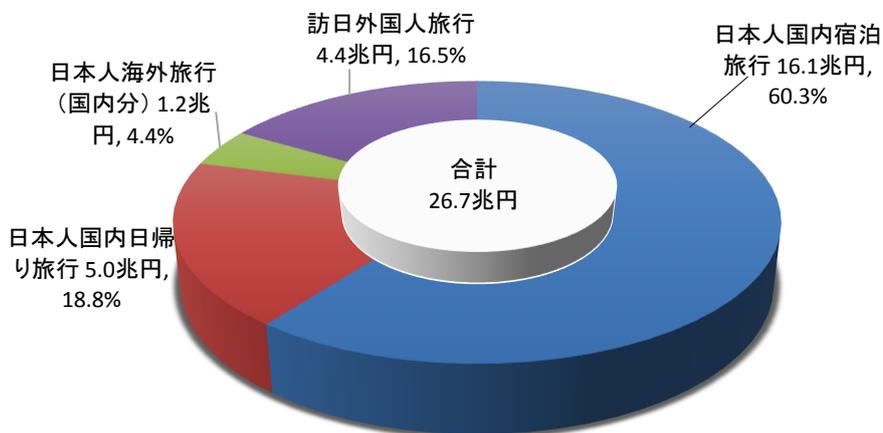
2014年以降、一人当たりの国内旅行回数は、順調に増加してきています。



②国内旅行消費額

日本での旅行消費額 26.7 兆円のうち国内旅行消費額は 21.1 兆円（79.0%）を占め、訪日外国人旅行者の増加に押され気味とはいえ、旅行マーケットの中心は国内旅行者です。

国内旅行消費額内訳(2017年)

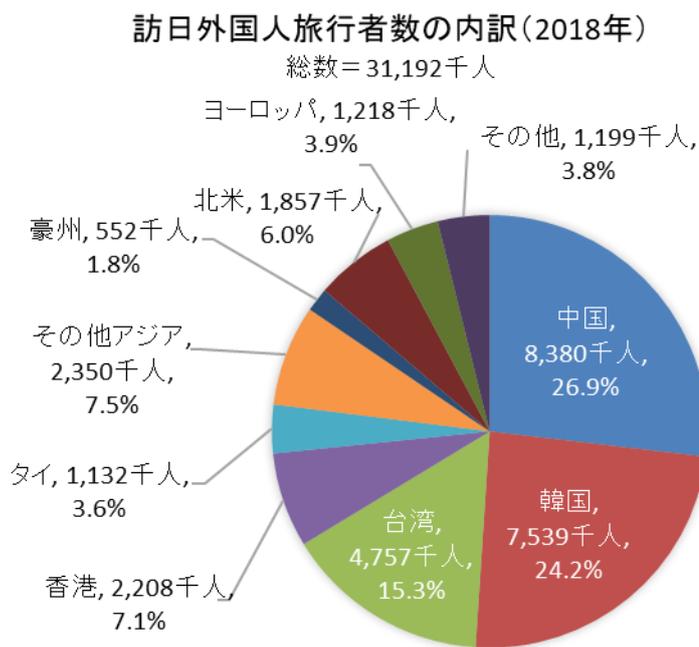
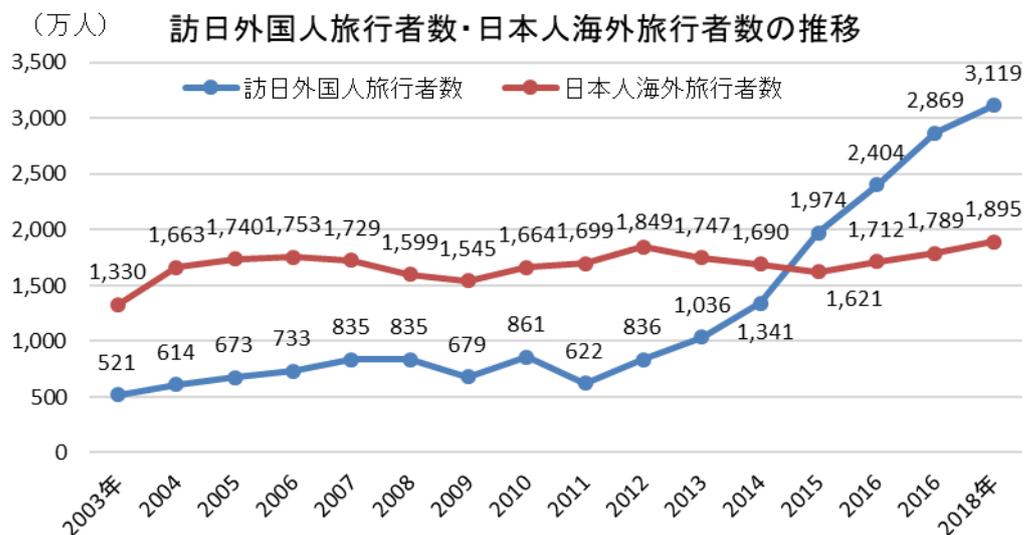


出典：「2018 年度版観光白書」（観光庁）より作成

(3)インバウンド観光

訪日外国人客は2011年の622万人から急増し、2018年には3,119万人を記録しました。

国籍別の宿泊客数で見ると1位は中国で、以下、台湾、韓国と続き、第5位の米国までで、全体の78.3%を占めています。



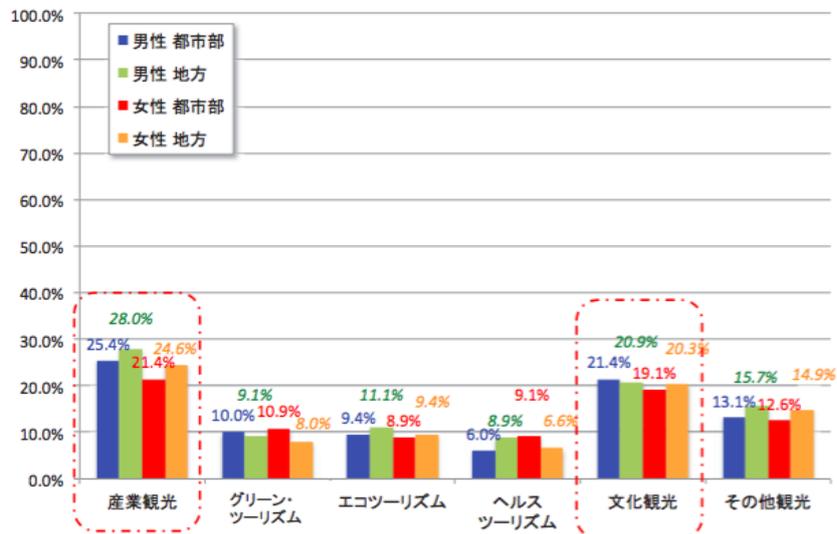
出典：「報道発表資料」（2019年1月16日日本政府観光局）より作成

(4) 着地型観光の進展

着地型観光は、近年人気を集めてきており、観光庁も力を入れているところですが、着地型観光の中でも、産業観光と文化観光はとくに人気が高くなっています。

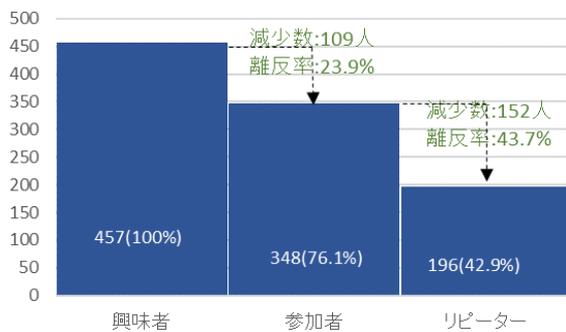
産業観光と文化観光の特徴は、興味から参加への移行割合が高く、またリピート率も高いのが特徴といえます。

着地型観光の参加経験率

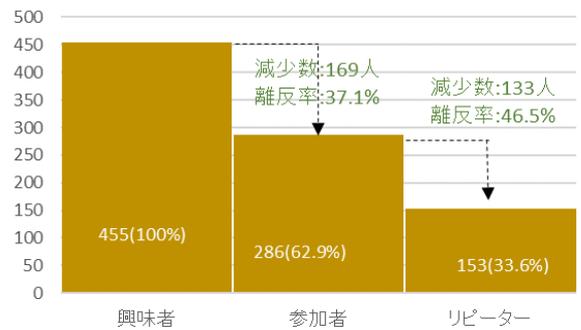


消費者の構造（参加率とリピート率）

産業観光



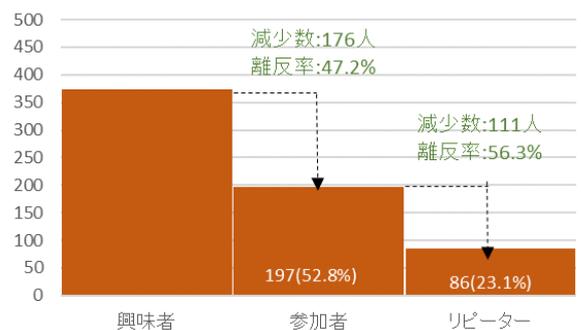
文化観光



グリーンツーリズム



その他の観光



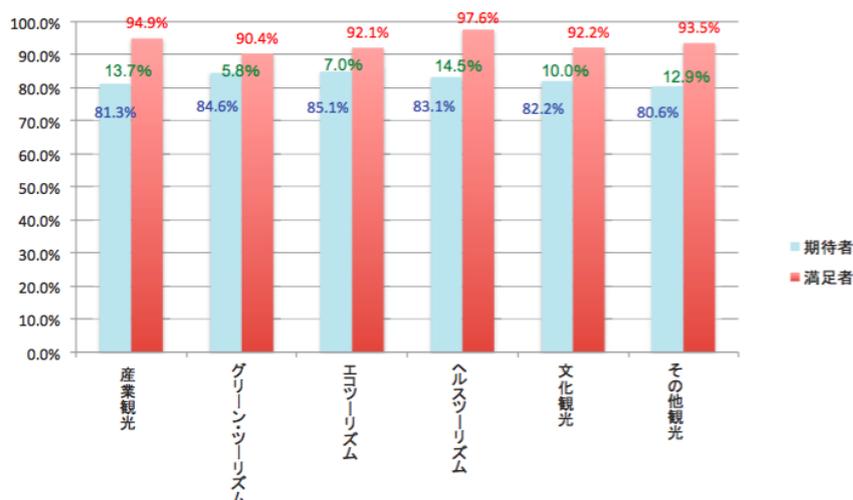
出典：「着地型旅行の市場動向」（観光庁）より作成

着地型観光のもう一つの特徴は、参加前の期待度の高さもさることながら、参加後の満足度がさらに高くなる点にあります。この「参加後の満足度の高さ」がリピートを生み出す要因となっているものと考えられます。

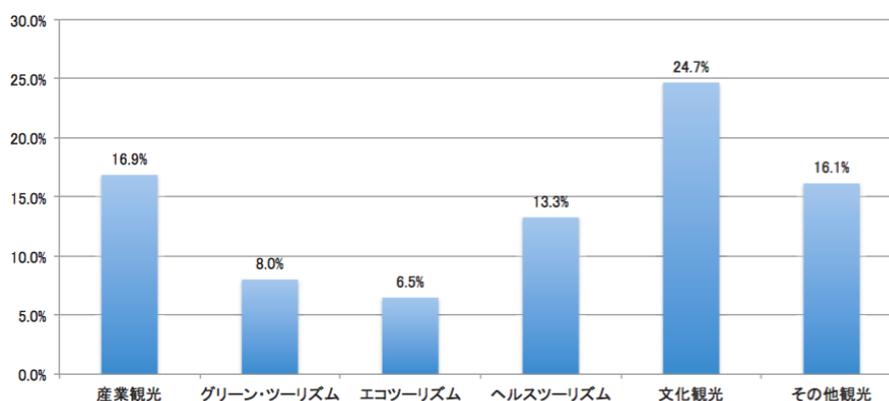
以上の調査は日本人を対象として行われたものですが、運営者側は外国人を誘致できる可能性も高いとみており、特に文化観光は4人に1人の割合で外国人旅行者を誘致できると考えています。

このような産業観光や文化観光の高まりは、旅行スタイルの多様化と深化の表れであり、今後の大きな流れになると考えられます。

期待者率と満足者率



運営側が外国人旅行者を誘致できると考えている割合



出典：「着地型旅行の市場動向」（観光庁）より作成

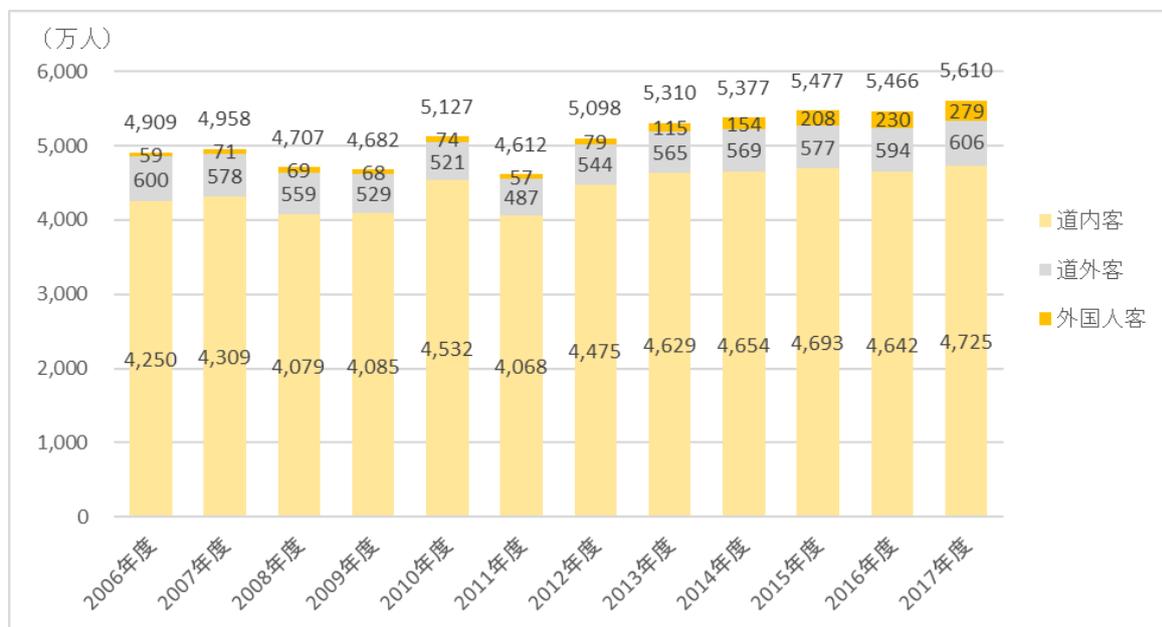
2-3. 北海道の動向

(1) 国内旅行者の状況

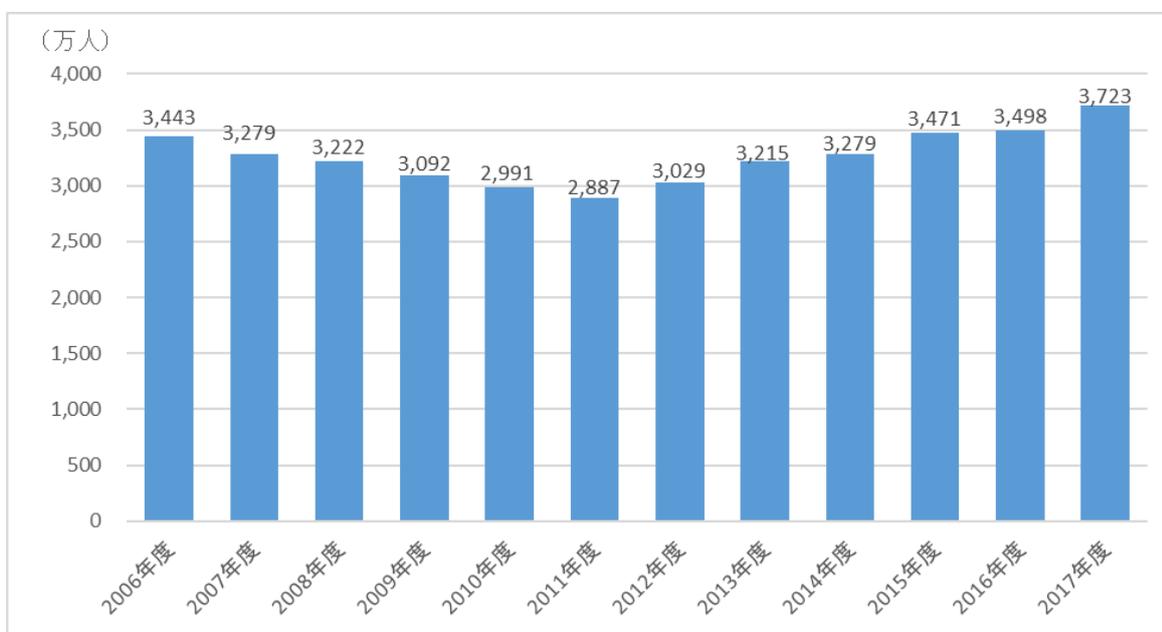
① 観光入込客数

北海道の観光入込客数は、道外客と外国人客を中心に、順調に伸びてきています。宿泊客（延べ数）についても、2011年以降連続して伸びを示しています。

北海道の観光入込客数



北海道の宿泊客数(延べ数)

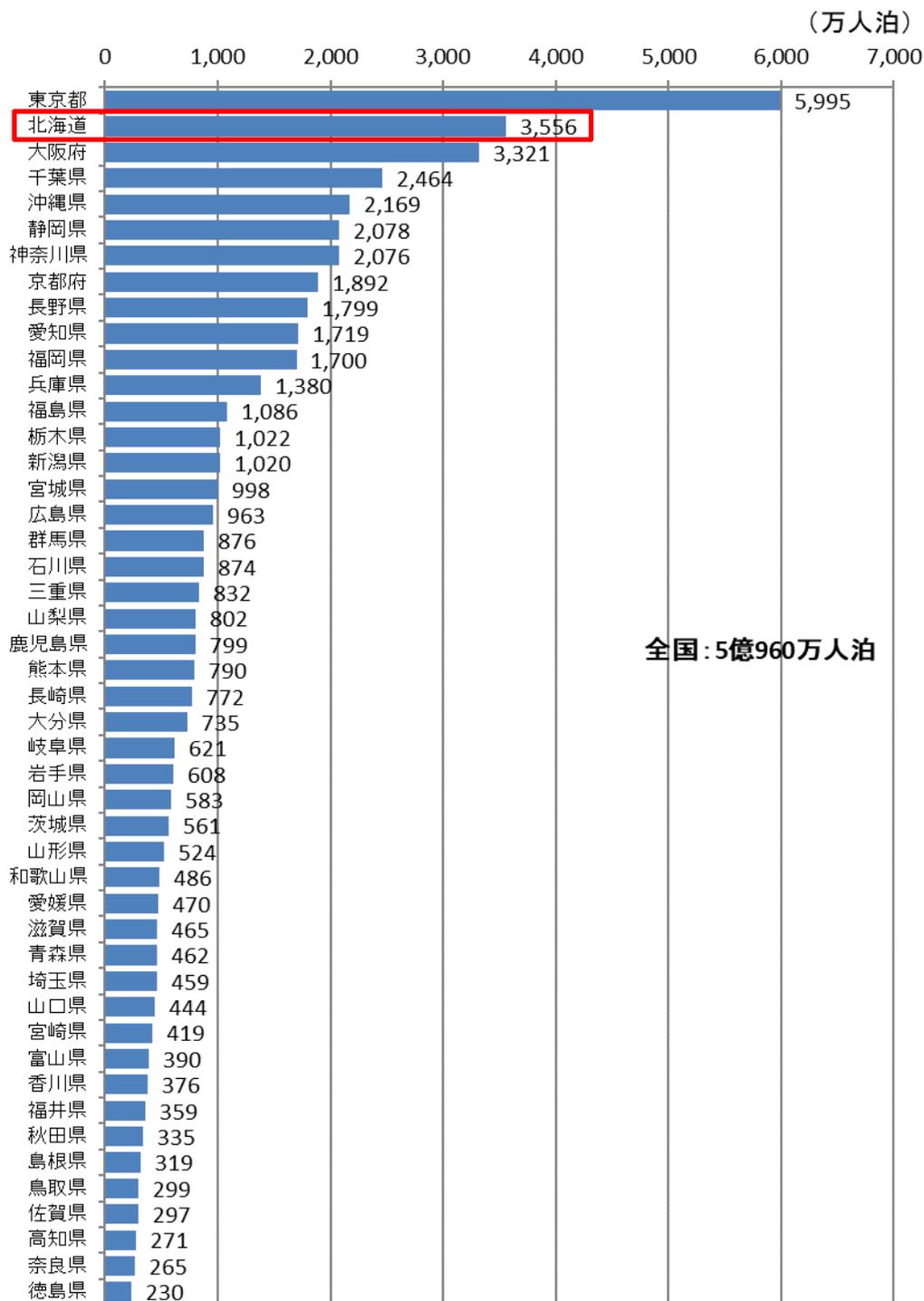


出典：「北海道観光の現況（2018年10月）」（北海道経済部観光局）

②都道府県別延宿泊客数

都道府県別の延宿泊客数では北海道は3,556万人泊で、全国第2位でした。

都道府県別延べ宿泊者数（2017年1月～12月（確定値））



出典：「宿泊旅行統計調査」（観光庁）より作成

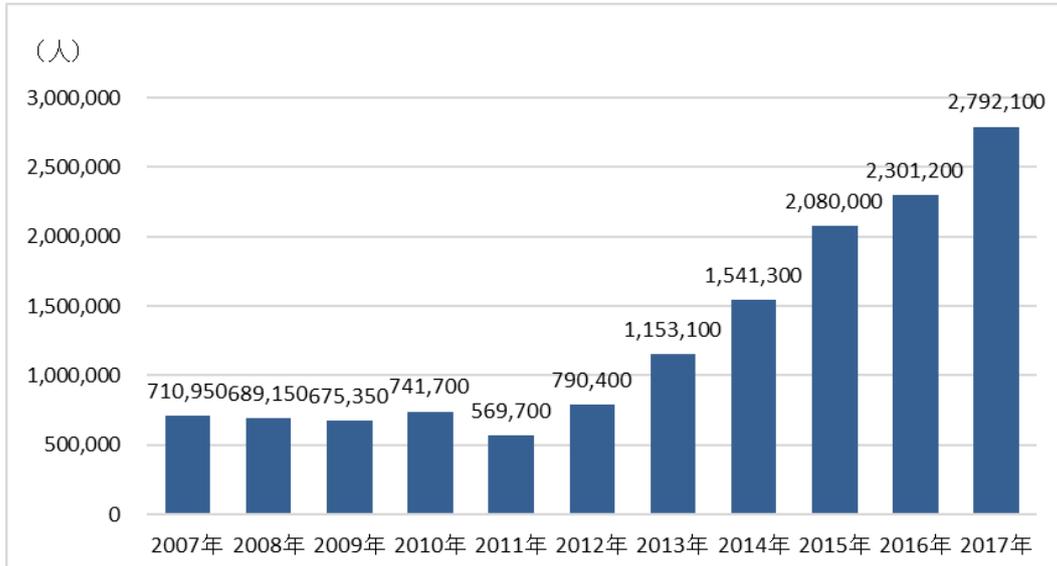
(2) 訪日外国人旅行者の状況

① 訪日外国人来道者

北海道を訪れる外国人旅行者は、2014年からの3年間で1.8倍の伸びを示しています。2012年以降の定期便の増便や、ビザ要件の緩和、免税制度の拡充に加え円安基調が続いていることが大きく影響しています。

北海道では2020年に500万人を目指す新目標を掲げています。

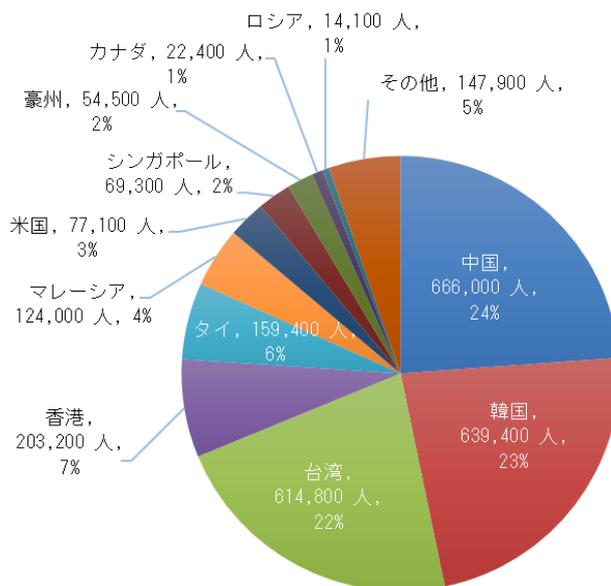
訪日外国人来道者推移



出典：「訪日外国人来道者（実人数）の推移（2017年）」（北海道経済部観光局）

訪日外国人来道者のうち88%はアジアからの来道で、特に最近の伸びが著しいのは、中国、韓国、マレーシアなどとなっています。

北海道の外国人観光入込客数

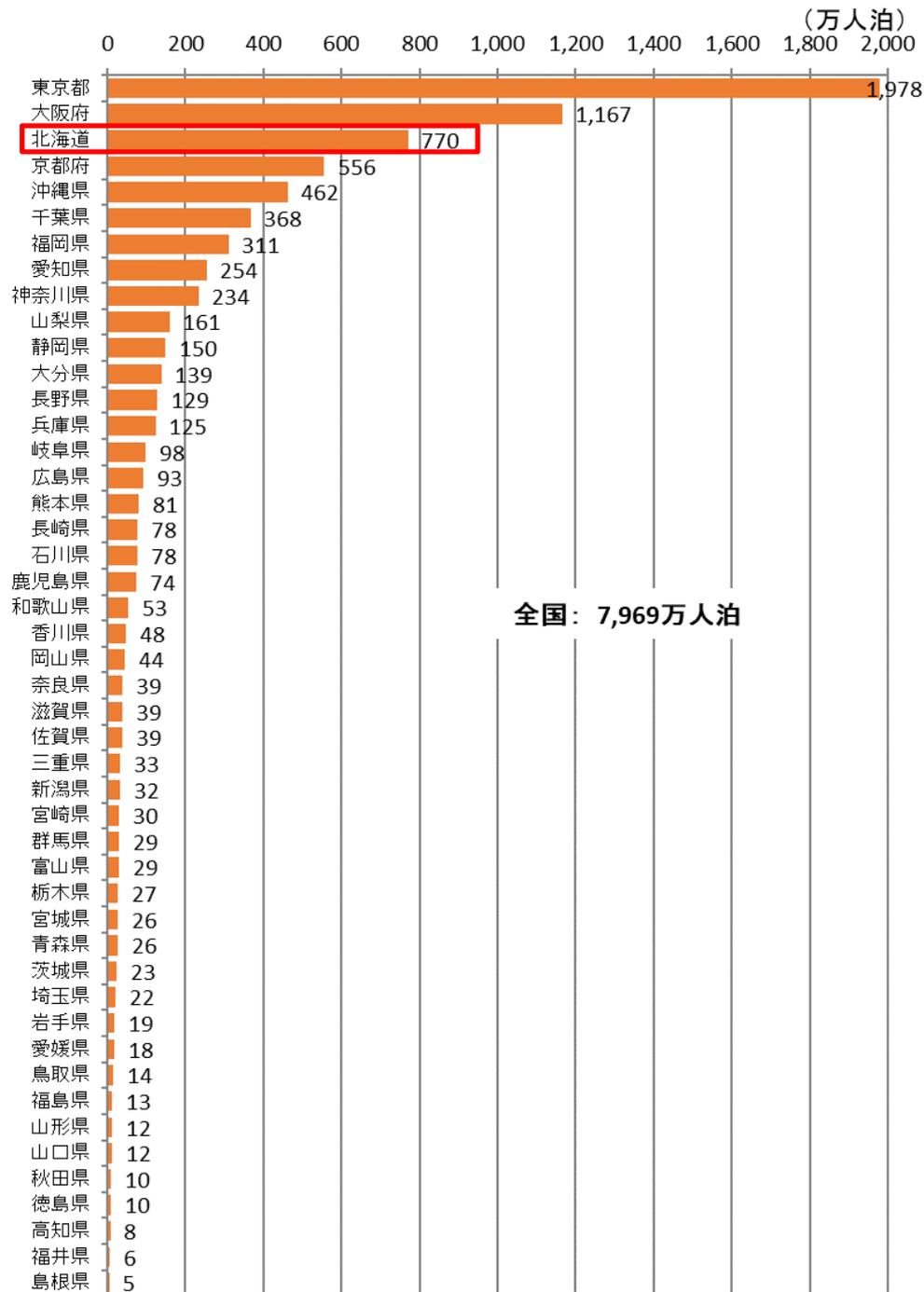


出典：「訪日外国人来道者（実人数）の推移（2017年）」（北海道経済部観光局）

②都道府県別外国人延宿泊客数

都道府県別の外国人宿泊客数で、北海道は770万人泊で第3位でした。

都道府県別外国人延べ宿泊者数（2017年1月～12月（確定値））

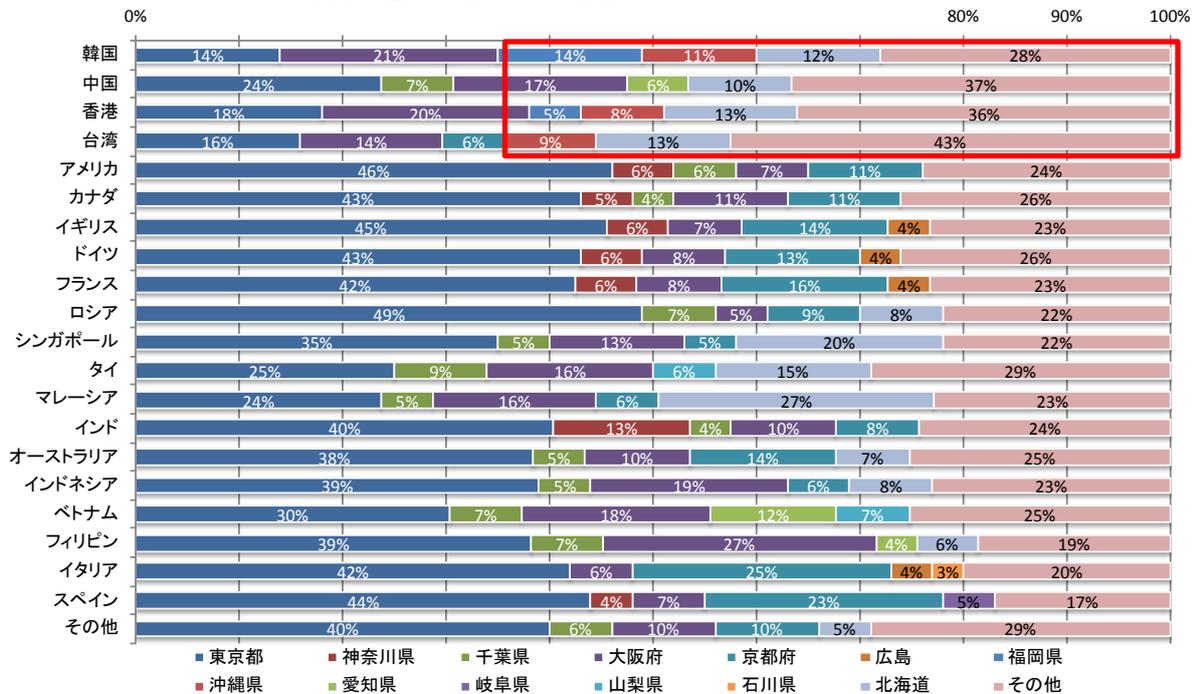


出典：「宿泊旅行統計調査」（観光庁）より作成

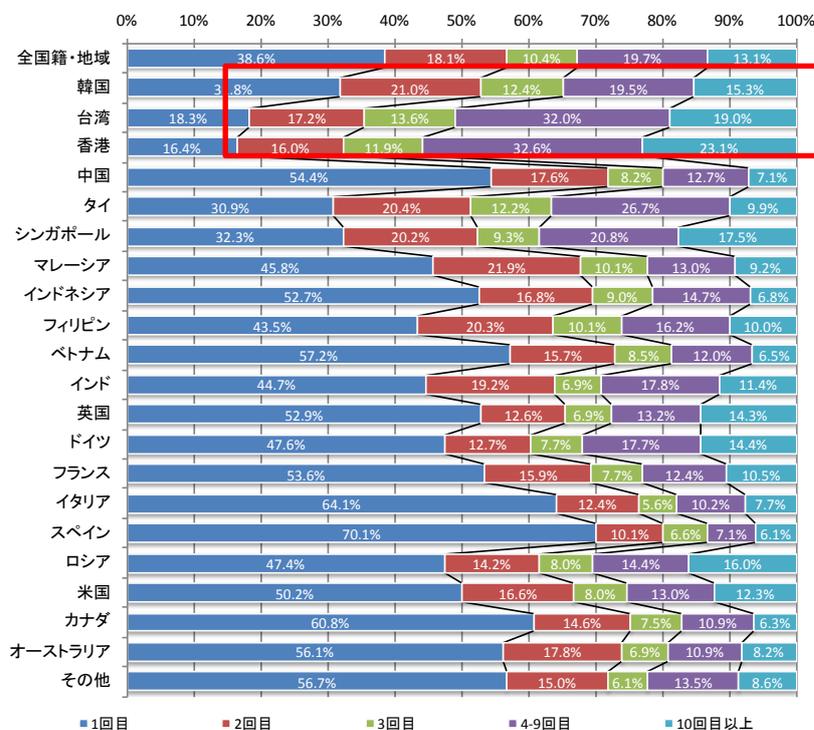
③増加するリピーターと地方都市への訪問割合の増加

この数年増加している香港、台湾、韓国からの観光客はリピーター割合も多いのが特徴です。また、これらの国・地域からの来訪者は、訪日回数が多いだけでなく、首都圏以外の地域への訪問率が高くなる傾向がみられることから、地方都市にとってはインバウンドの増加への期待が寄せられるところとなっています。

国籍別都道府県別外国人延宿泊者構成比（2017年）



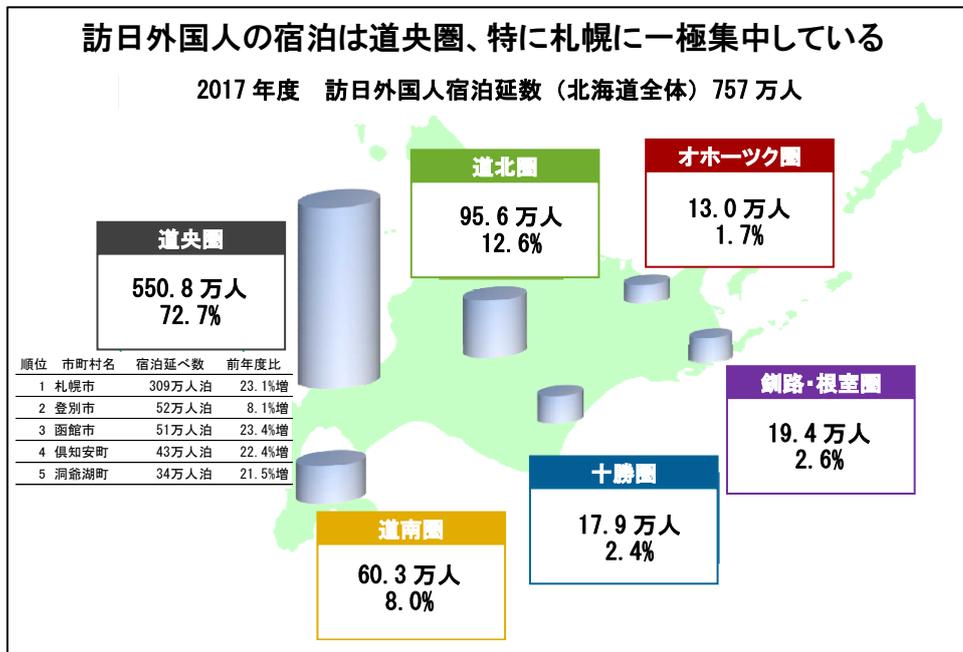
訪日外国人旅行者の来訪回数（2017年）



出典：「2018年度版観光白書」（観光庁）より作成

④北海道観光におけるインバウンド観光の変化

来道外国人旅行者 757 万人（延べ数）のうち、72.7%が道央圏に集中しています。札幌市は 309 万人泊で、北海道全体の 40.8%を占めています。オホーツク圏は 1.7%にとどまり、道内の圏域の中では最も低い割合となっています。



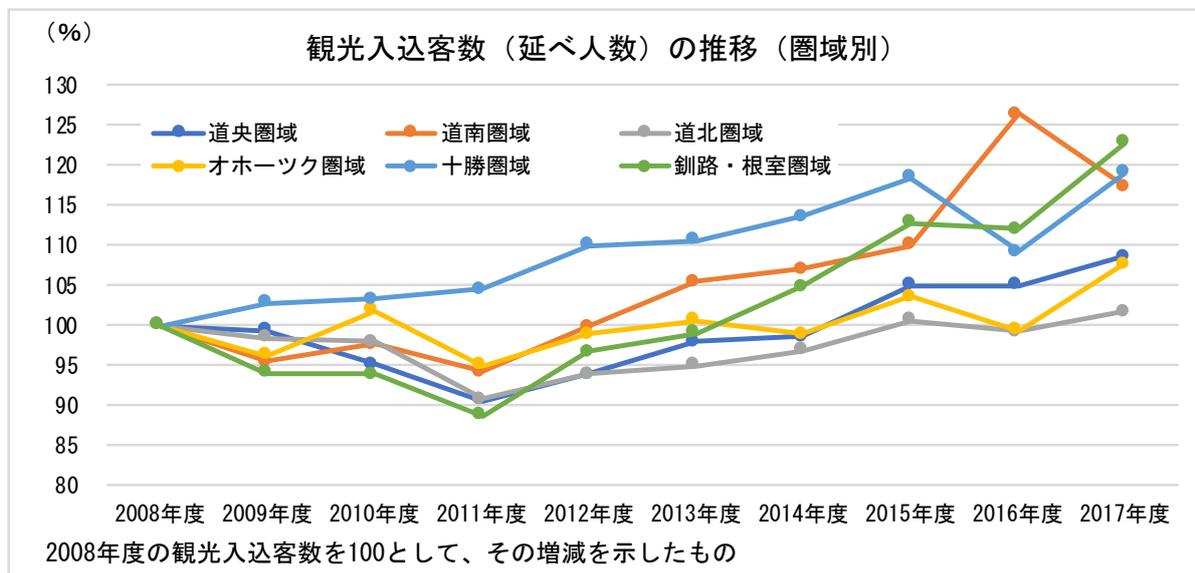
出典：「北海道観光入込客数調査報告書平成 29 年度」より作成

2-4. 網走市の動向

(1) 圏域観光入込客数の状況

① 観光入込客数(道内圏域別比較)

北海道の観光入込客数の中では、十勝圏、道北圏の伸びが大きくなっています。オホーツク圏は、減少傾向にありましたが、2011年以降上昇傾向になりつつあります。

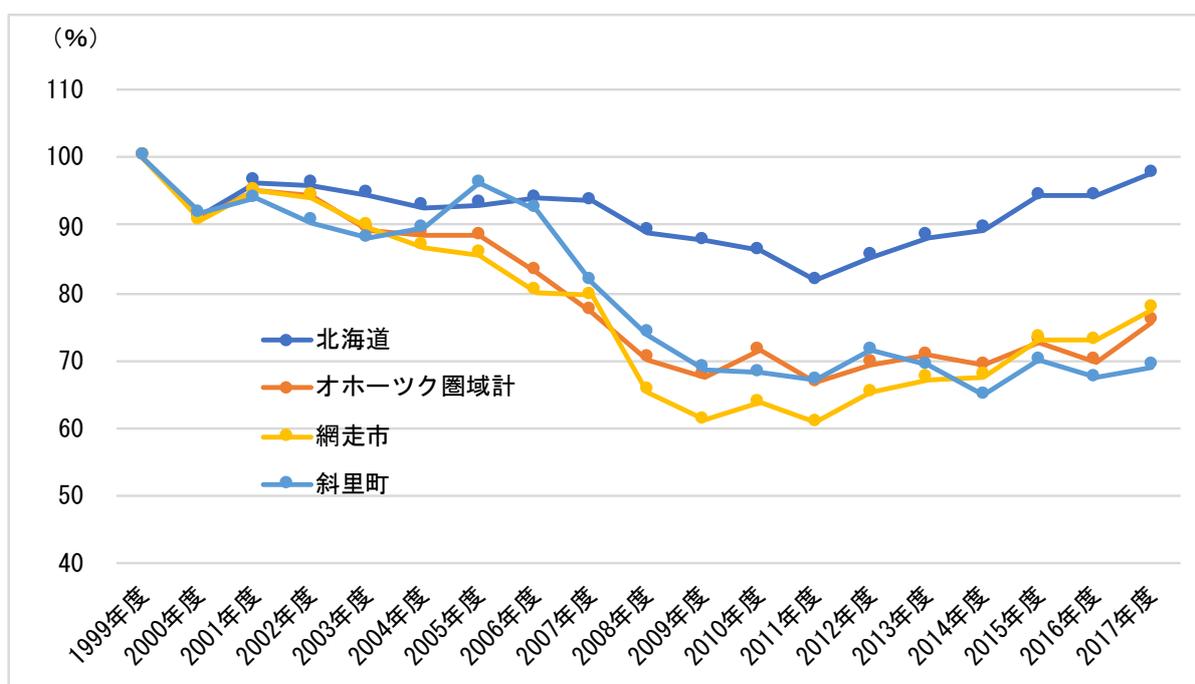


出典：「北海道観光入込客数調査（2017年）」（北海道経済部観光局）

② 観光入込客数(オホーツク圏および網走市・斜里町)

オホーツク圏域全体の観光客入込数が伸び悩む中、網走市は2011年以降順調な伸びを示しています。

観光入込客数の推移(比較)

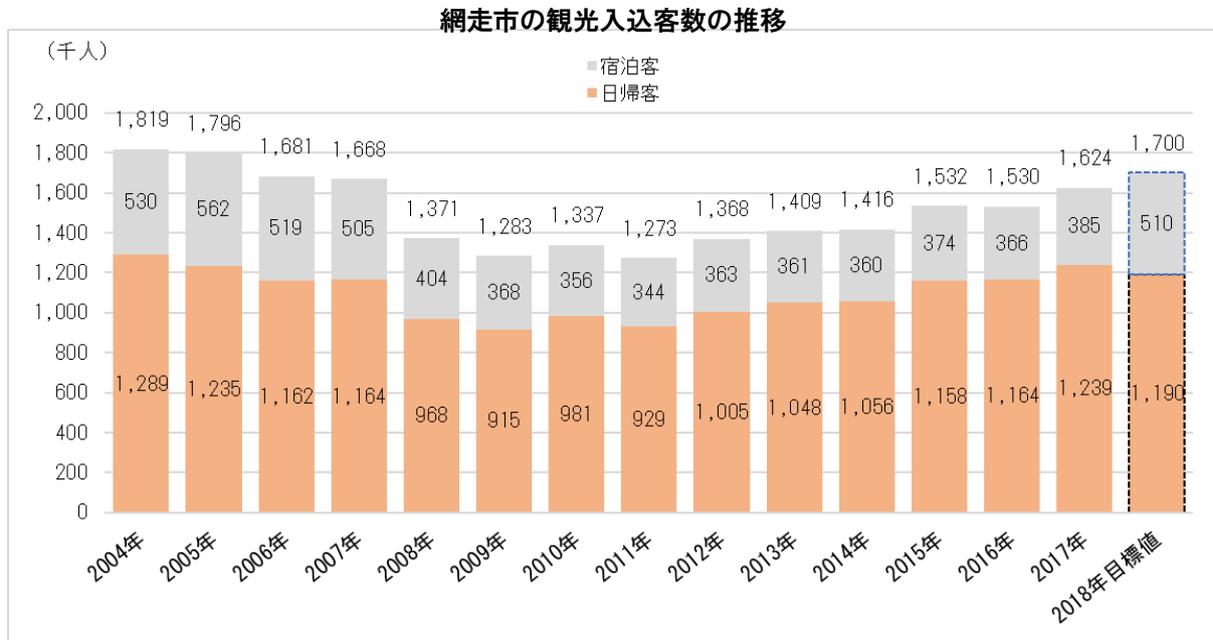


出典：「北海道観光入込客数調査（2017年度）」（北海道経済部観光局）

(2) 網走市観光入込客数の状況

① 観光入込客数

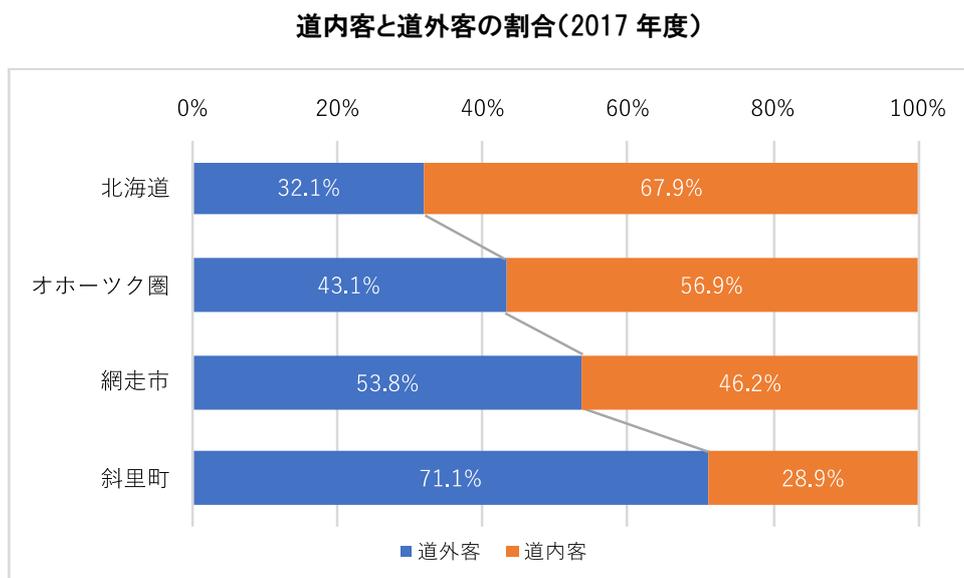
網走市の観光入込客数は、2004年から2011年までは減少を続けてきていましたが、2011年以降は回復基調にあります。特に、2017年度の日帰り客は「網走市観光振興計画 2014」で定めた目標値である119万人を超えて、123.9万人となりました。入込総数の目標である170万人までもう一步のところまで回復してきました。



出典：「北海道観光入込客数調査（2017年度）」（北海道経済部観光局）

② 道内客と道外客

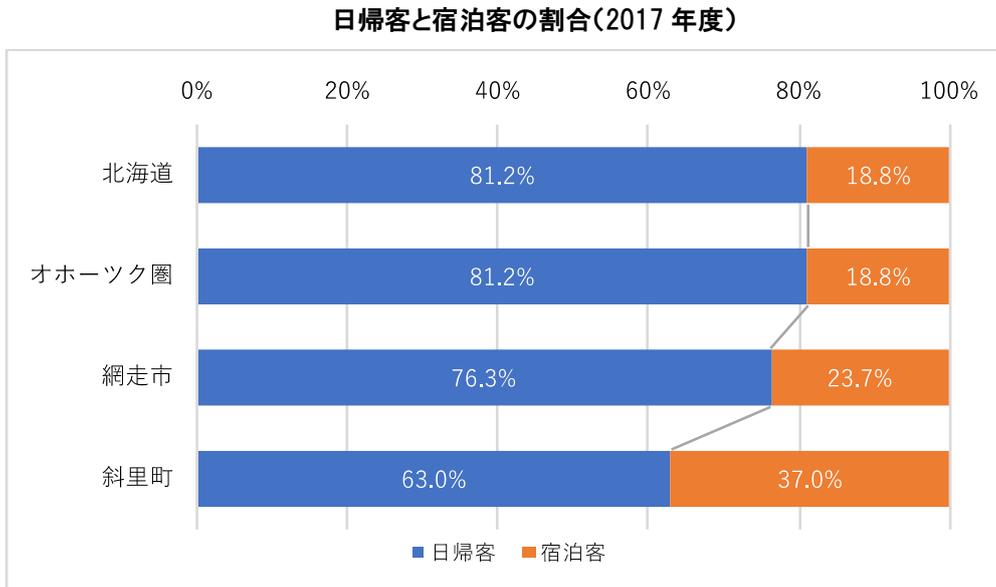
網走市は道内客と道外客がほぼ同じ割合で、オホーツク圏全体と比べて道外客比率は高いものの、斜里町と比べて道外客の比率は低くなっています。



出典：「北海道観光入込客数調査（2017年度）」（北海道経済部観光局）

③日帰客と宿泊客

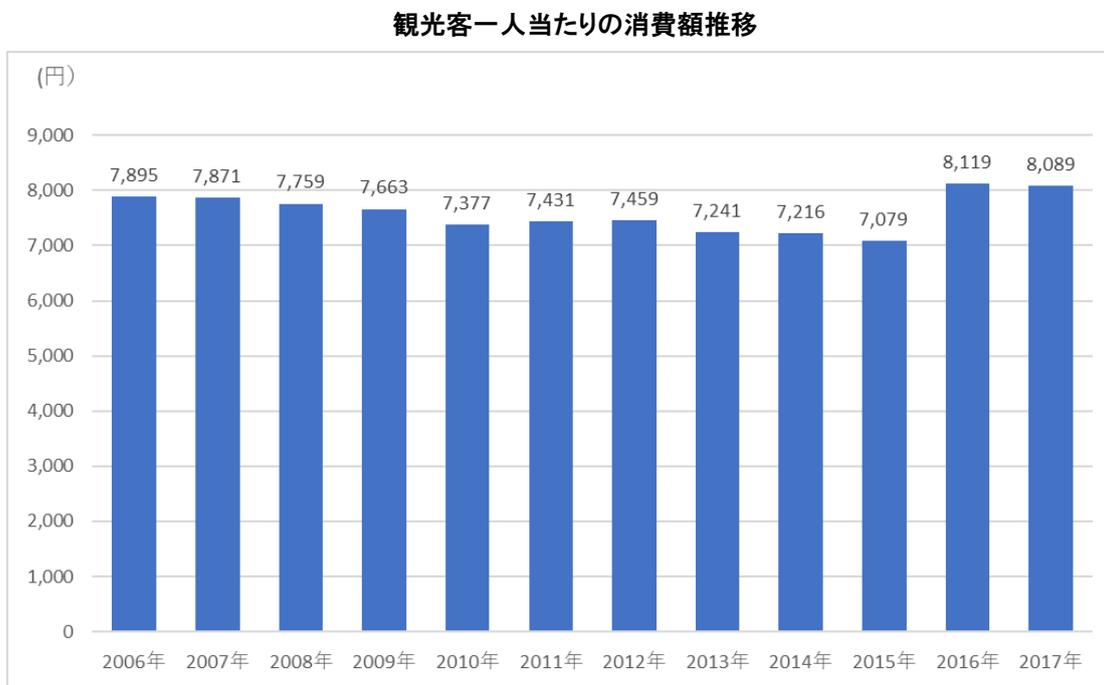
網走市は宿泊客の比率は 23.7%で、オホーツク圏全体と比べて宿泊客比率は高いですが、斜里町と比べると宿泊客の比率は低くなっています。



出典：「北海道観光入込客数調査 2017 年度」(北海道経済部観光局)

④観光客一人当たりの消費額

網走市の観光客一人当たりの消費額をみると、2006 年をピークに低下傾向にあります。2016 年から新しい基準値に基づき算出したため、増加しております¹。



出典：「北海道観光入込客数調査 2018 年度」(北海道経済部観光局)、「網走商工労働観光概要」(網走市)より作成)

¹ 2015 年以前の観光消費額は 2006 年度網走市観光動向調査の結果により定められた基準値による算出である。2016 年以降については、2016 年度網走市観光消費動向調査の結果により新しい基準値に基づき算出している。

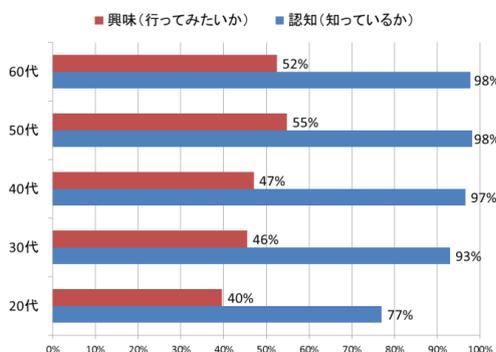
(3) 観光客がみた網走の観光(独自データによる網走観光の実態)

網走市の観光を全国の消費者および来訪経験者(3年以内)がどう評価しているか、網走に対するイメージ、満足度について分析した「JTB 地域パワーインデックス調査」による分析結果では、以下のような点が示されました。

① 網走に対する認知度、興味度(行ってみたいか)

- 網走に対する「認知度」と「興味度」を年代別にみると、40代以上の中高年層には認知度ではほぼ100%に近く非常に高いですが、20代では77%と落差があります。
- 認知度に応じて「興味度(行ってみたいか)」も低減し、20代では40%の結果となっています。
- 今後、世代交替が進むにしたがって、認知度が低下することが危惧され、今後は特に若い世代に対する網走のアピールが課題です。

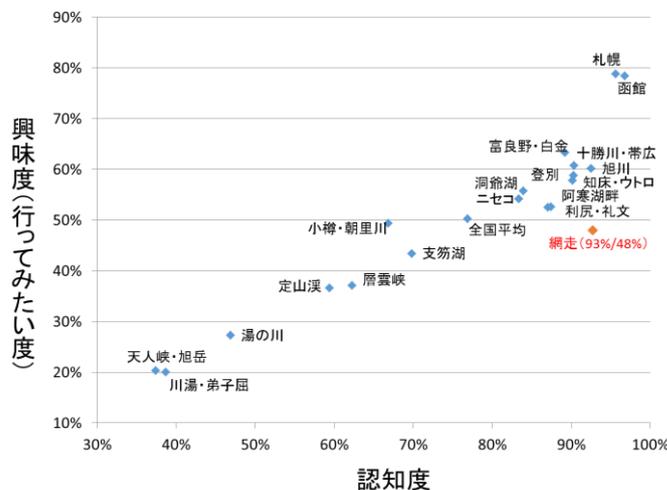
網走の認知度と興味度(行ってみたいか)



② 認知度、興味度の道内比較

- 認知度、興味度を道内の主要観光地(18か所)と比較してみると、網走の認知度は札幌、函館について高くなっています。
- しかし興味度では道内観光地の中で認知度が高い観光地の中では低位にあります。
- 全国からみて北海道の中でも網走は遠隔地であるという意識もあるかと思いますが、それを乗り越えてでも「行ってみたい」と思わせるまでにはなっていません。

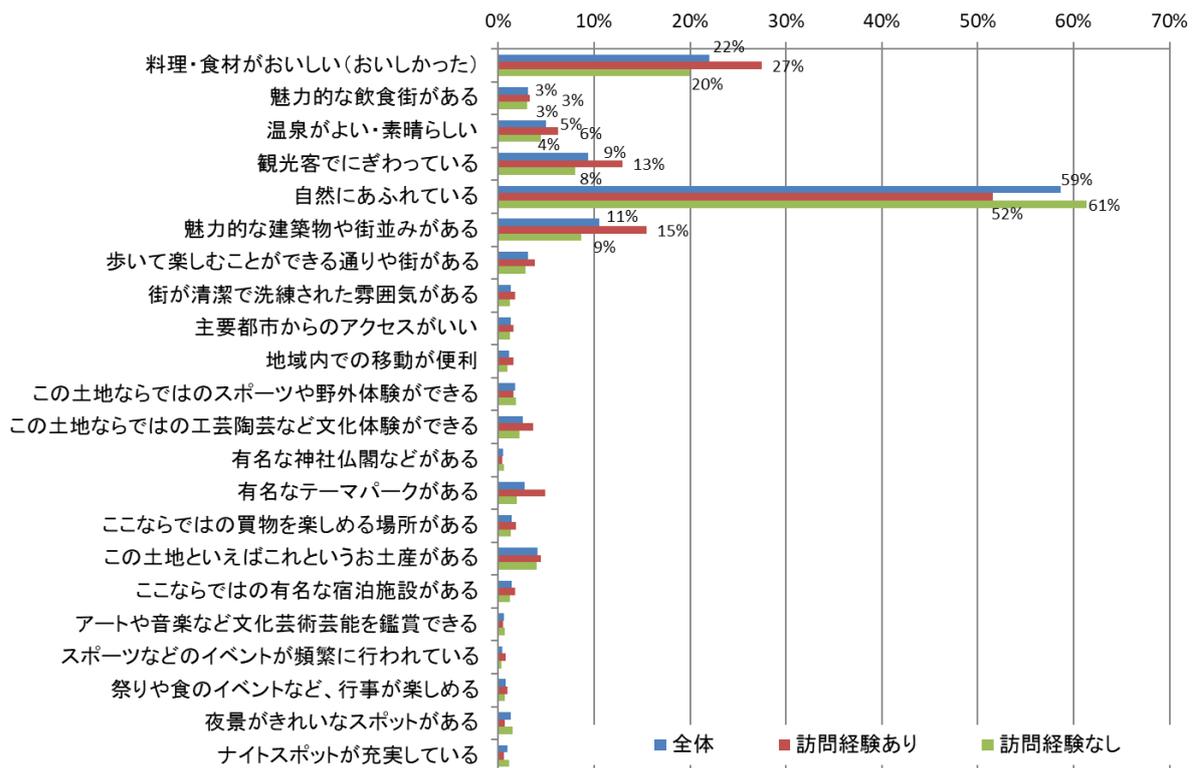
認知度と興味度の道内比較



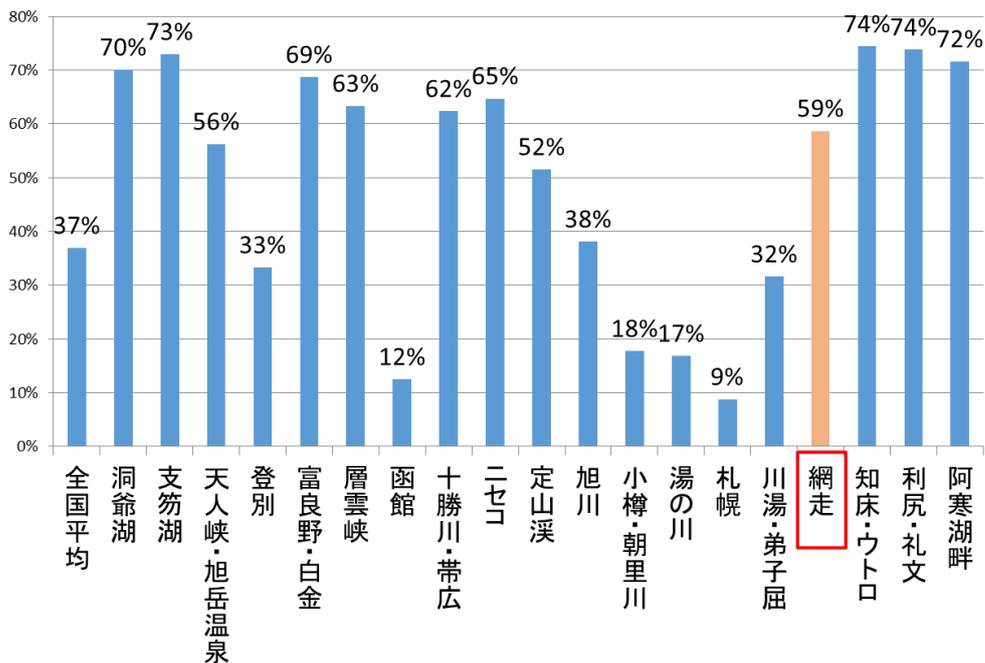
③具体的な網走のイメージ（訪問経験のあり・なし別）

- 網走に対するイメージで最も高いのは「自然にあふれている（全体で 59%）」です。
- 網走への訪問経験の有無でみると、未経験者は「自然にあふれている」イメージが 61%に対して、3 年以内訪問経験者は 52%とギャップがあります。実際に訪れた観光客は期待よりも自然を感じていない恐れがあります。
- 「自然にあふれている」は、網走の最大のイメージであります。道内の他の観光地と比較してみると、決して網走は抜き出ていません。豊かな自然は北海道全体に対する共通イメージであり、単に「自然にあふれている網走」だけではアピールにはなりにくいと考えられます。
- 次に高いイメージは「料理・食材がおいしい（全体で 22%）」であり、訪問経験者が 27%に対し未経験者は 20%と、「自然にあふれている」とは逆に訪れると期待以上であった可能性があります。
- 「食」も同様に北海道共通のイメージであるため、訪問未経験者に網走の食の違いを開拓しアピールするのが課題です。
- 総じて、網走ならではの「自然」や「食」を打ち出すことが求められています。

網走の具体的なイメージ



「自然があふれている」イメージの道内観光地比較

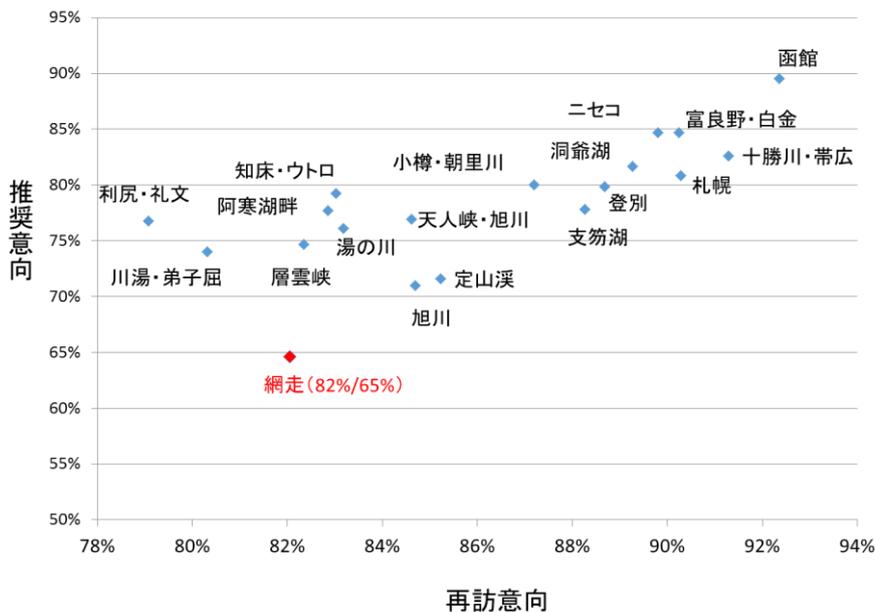


④再訪意向と推奨意向

○訪問経験者に対して「再訪意向」は 82%であったのに対し、「推奨意向」では 65%と、道内の各観光地の中で最も低い数値となりました。

○網走よりも奥にある「知床・ウトロ」や最北端の離島の「利尻・礼文」が 80%近くの推奨意向であることを踏まえると、「一度は行ってみるべき」と称される価値をいかに見出すかが課題と言えます。

訪問経験者の再訪意向と推奨意向



⑤興味度（行ってみたい）に影響しているイメージ

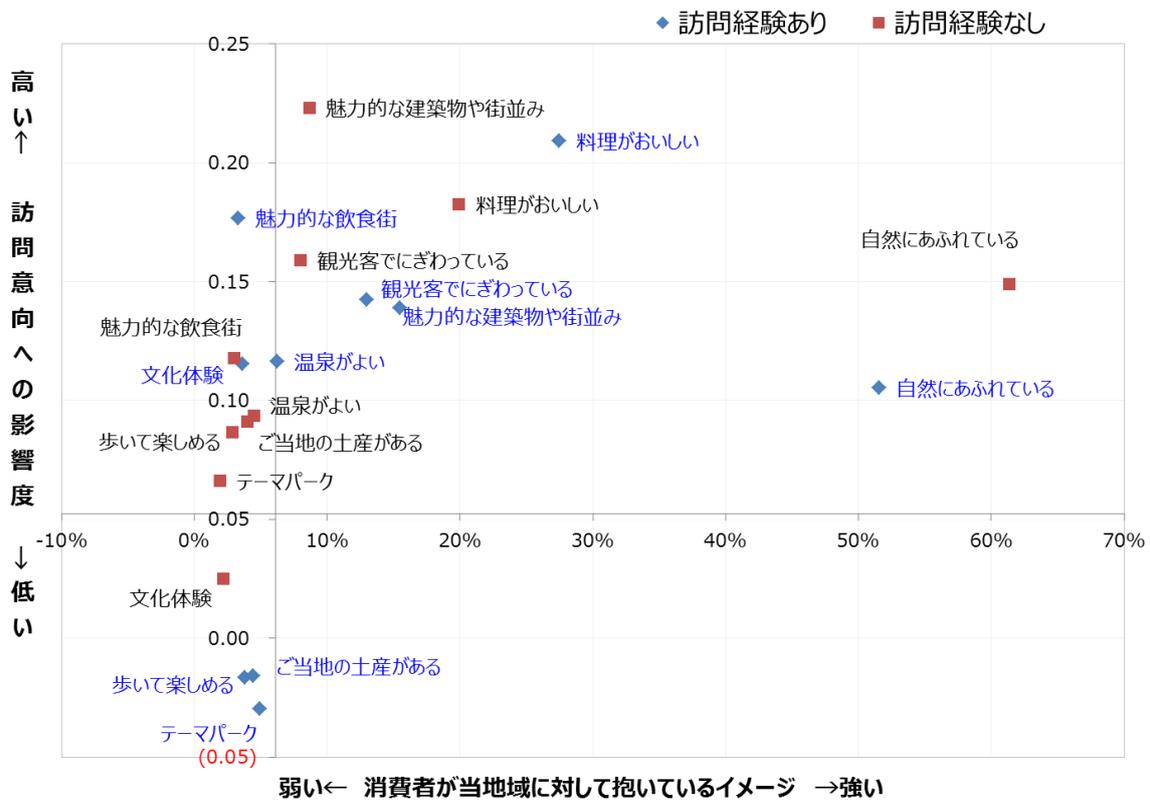
ここでは網走に行ってみたいという興味度に対して、どのようなイメージが強く影響しているかを分析しました。

○網走のイメージの筆頭である「自然にあふれている」イメージは、網走への訪問経験あるなしに関わらず興味度に強く影響しています。前述したように道内観光地に共通するイメージであるだけに、さらなる網走の自然の特徴を磨く必要があります。

○次いで、強いイメージの「料理・食材がおいしい」も興味度への影響が強いことがわかります。

○比較的興味度への影響が高い割にイメージが弱いのが「魅力的な飲食街」であり、料理・食材の強みと連携して活かしていく必要があります。

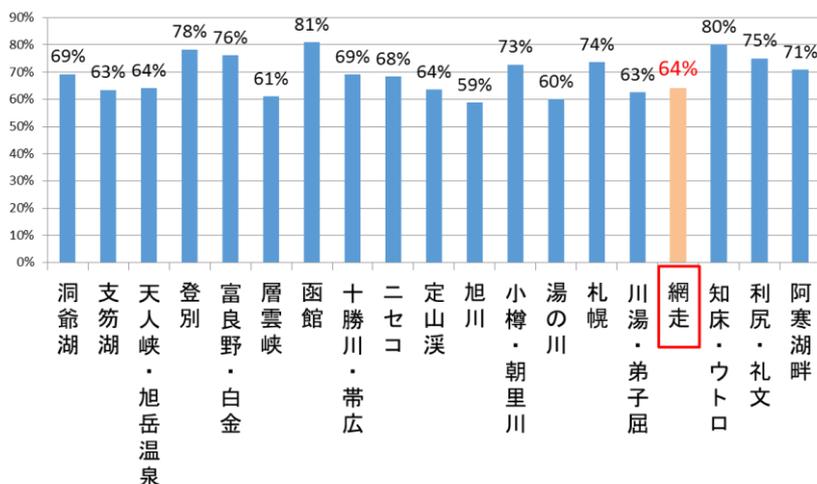
「行ってみたい」に影響しているイメージ



⑥観光地としての総合満足度

- 網走への訪問経験者に対して網走に対する満足度を聞いたところ 64%でした。
- これを道内観光地と比較すると、ほぼ中位の水準です。
- 最も高かったのは「函館（81%）」で次に「知床・ウトロ（80%）」でした。

来訪経験者の総合満足度の道内比較

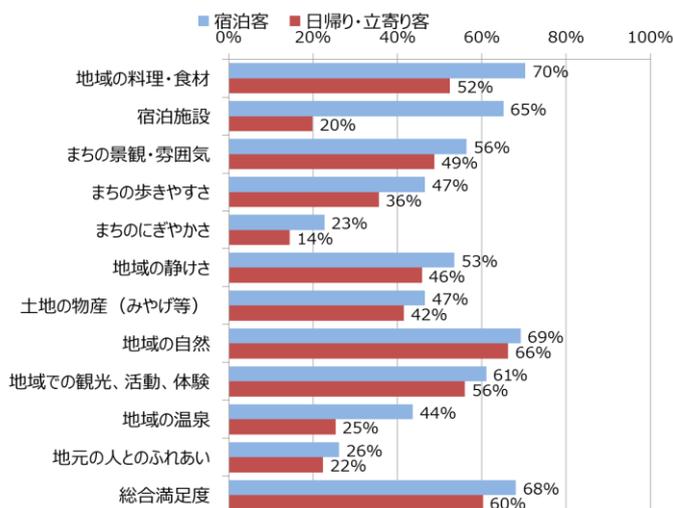


⑦項目別の満足度

網走に対する具体的項目別の満足度について宿泊客と日帰り・立寄り客別に聞きました。

- 総合満足度では宿泊客 68%に対し、日帰り・立寄り客は 60%と開きがあります。宿泊してこそ満足できる網走の魅力づけとアピールが問われます。
- 宿泊客と日帰り・立寄り客とでギャップがあるのが「地域の料理・食材」であり、宿泊施設の料理だけではなく地域の食を活かした居酒屋やレストランの存在、質の向上が問われています。
- 逆に日帰り・立寄り客に対しても提供施設やメニューのバリエーションが問われることとなります。

具体的項目の満足度



⑧総合満足度に影響する満足項目

「⑤興味度に影響するイメージ」と同様に、満足度についても網走の総合満足度にどの項目が影響しているかを分析しました。対象は宿泊客で20代と60代の世代別にとらえました。

- 若手20代には「地域の料理・食材」が高い満足度を示し、総合満足度にも強く影響しています。
- 一方60代シニア層は「地域の自然」に高い満足度と総合満足度への影響を与えています。「地域の料理・食材」も満足度は高いものの、総合満足度にはそれほど強い影響を与えていません。
- 総合満足度への影響がありながら個別にあまり満足されていない項目は、20代では「まちの景観・雰囲気」や「まちのにぎやかさ」であり、60代には「地域の温泉」「地元とのふれあい」が指摘されます。世代の違いはあるものの、これらの項目に対する満足度を高めることは網走への総合満足度を高める要因といえます。

「総合満足度」に影響している具体的項目



⑨居住者が考える観光客の満足度（網走市民は観光客が満足していると思っているか）

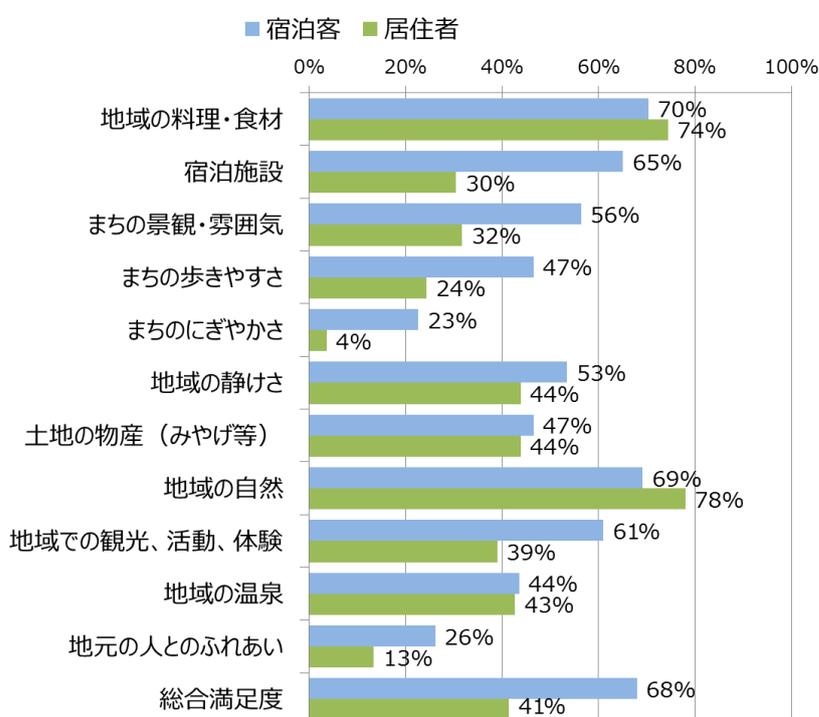
本調査では観光客自身の満足度と共に、網走居住者に対して観光客は網走に満足していると思うか」という調査を実施しています（居住者自身の満足度ではない）。これは観光関係者だけでなく、一般市民が自らのまちの資源や魅力をどう評価し自負しているかを測る目的で行っています。

○居住者が考える観光客の網走への総合満足度は41%であり、観光客自身の68%に対してギャップがあります。自らのまちに対してあまり自信を持っていないことが推察できます。

○項目別でギャップがあるのは「宿泊施設」や「まちの景観・雰囲気」「まちの歩きやすさ」そして「まちのにぎやかさ」などです。

○逆に観光客が満足していると自信を持っているのは「地域の料理・食材」と「地域の自然」です。

観光客と居住者が考える項目別満足度



【参考資料】「JTB パワーインデックス調査」について

JTB パワーインデックス調査とは

三者の立場で全国 250 地区を比較

消費者の声

(全国認知イメージ調査)

2016年3月調査
北海道-九州・沖縄まで全国
10地方別 20-60代男女 500
名ずつ合計 5,000名に、認知、
訪問経験、イメージ、来訪意向、
再訪意向等を聞く調査

来訪者の声

(来訪経験者調査)

2016年8月より調査
当該地域へ3年以内に訪問した
全国 20-60代男女 300名を対象に、
訪問時期(シーズン)、満足度、
満足した内容、再訪意向を聞く調査

現地の人の声

(居住者調査)

2016年8月より調査
当該地域の居住者(20-60代
原則100名)に、訪問者の満足度、
なによりに満足していると思うか
等を聞く調査

<調査内容>

調査対象：全国250の観光地・都市(北海道は19地区)
調査方法：Web調査(パネル回答者への配布・回収)
割付項目：性別、年齢、居住地
調査実施時期：2015~2016年調査実施・2017年取りまとめ

A調査(認知・関心・来訪経験・再来訪意向・推奨意向・イメージ調査)

(2015年度実施)

- ・回答者=全国26,631人。1地域あたり5000人が回答。/1人が50地域回答する調査を5グループ実施)
- ・抽出条件=1年以内に1回以上国内宿泊旅行に行った人。

B-1 調査(来訪経験者満足度調査)

(2016年度上期/125地域、下期125地域を実施)

- ・回答者=全国延べ約75,000人。1地域あたり約300人以上が回答。/1人が複数地域を回答)
- ・抽出条件=対象地域に過去3年以内に宿泊する、もしくは行ったことのある人。観光に限らない。

B-2 調査(住民が考える観光客満足度調査)

(2016年度上期/125地域、下期125地域を実施)

- ・回答者=全国約25,000人。1地域あたり100人程度が回答。
- ・抽出条件=該当地域の居住者。

北海道は19の主要観光地に対する認知度、イメージ、来訪経験、満足度等について
全国及び居住者に対しWebアンケートを実施

白図は「クラフトマップ」より
<http://www.craftmap.box-i.net/>

27

(4) 網走市の観光資源・コンテンツ・食資源

網走市には、自然環境、景観、歴史・文化、体験メニューなど、優れた観光資源・コンテンツや食資源があります。

① 網走の自然・景観

観光資源	概要	イメージ
天都山	市街地の南西にある標高 207 メートルの山。国の名勝に指定されているとともに、網走国定公園にも属している。天都山展望台・オホーツク流氷館からは 360 度のパノラマが楽しめる。	
フラワーガーデン「はな・てんと」	天都山山頂の網走レークビュースキー場の斜面が、夏には網走市民グループボランティア活動による手入れで広大な花畑に変身する。	
感動の径(みち)	雄大なオホーツク海や知床連山を背景に、色彩鮮やかな道が続いている。黄金色に輝くビール麦畑、白い花が風に揺れるじゃがいも畑、緑萌えるビート畑、黄色が鮮やかなオランダキカラシの畑は絵画のように美しい。「美しい日本の歩きたくなるみち 500 選」にも選出されている。	
能取岬	オホーツク海に突き出た網走を代表するビューポイントで、様々な CM や映画のロケ撮影地として利用されている。夏にはオホーツク海に沈む夕日を見ることができ、冬は流氷見物の特等席である。時には四角形や三角形に変形した太陽（蜃気楼現象）を見ることがもできる。	
能取湖サンゴ草	能取湖はオホーツク海に通じる周囲 31km の汽水湖で、8 月下旬から 9 月下旬にかけて真っ赤なサンゴ草が一面に赤い絨毯をしきつめたように広がる。	
大曲湖畔園地ひまわり畑・コスモス畑	名勝・天都山の麓、網走湖と網走川で囲まれた約 80 ヘクタールの園地では、秋には約 14 ヘクタールに渡り 200 万本以上のひまわりが花を咲かせるとともに、コスモスも同時期に見頃を迎える。	
二ツ岩	海岸から大きな岩が二つ突き出していることから名付けられた。	

観光資源	概 要	イメージ
フロックス公園	園内は美しいフロックスの花などが咲くほか、網走湖や女満別方面の平野が一望できる展望ポイントがあり、花と眺望を楽しむことができる。	
美岬ヤチダモ	林野庁の「森の巨人たち百選」に選ばれた貴重な木。樹齢は推定 300 年以上と言われており、幹周 460cm・樹高 37m と、周囲の木々とは歴史の重みが違う。	
濤沸湖(トウフツコ)・白鳥公園	ラムサール条約登録湿地である濤沸湖は、四季を通じて 250 種ほどの野鳥が見られる汽水湖である。10 月頃餌をもとめて飛来する白鳥を観察できる白鳥公園は人気のスポットである。	
濤沸湖水鳥・湿地センター	濤沸湖周辺の自然・歴史・文化などをパネルや映像、解説を通じて分かりやすく紹介している施設であり、自由に野鳥を観察できる望遠鏡も設置されている。	
網走市水産科学センター	網走市の沿岸・内水面漁業の振興を図るために設置された施設。併設している「川と湖の学習館」では豊かな自然が残る網走の川や湖の生い立ちや漁業の様子などを学ぶことができる。	
こまば木のひろば	駒場地区からつくしヶ丘地区の海沿いの高台に位置し、オホーツク海や知床連峰を一望できる市民憩いの森林公園である。	
呼人探鳥遊歩道	網走湖に突き出している呼人半島にある遊歩道。四季を通してバードウォッチングが楽しめ、春にはミズバショウの群落を見ることができる。	

観光資源	概 要	イメージ
オホーツクの森	網走市と北見市にまたがる約 3,700ha の国有林で、森林散策やバードウォッチング、森林浴などを手軽に楽しめる。間伐や枝打ち、植樹などの林業体験も催されている。	
けあらし	流氷が接岸する時期に網走川で見られる。外気温が氷点下15℃から25℃くらいまで冷え込むと川面から霧が湯気のように立ち上る。	
幻氷	蜃気楼の一種で、海面に漂っているはずの流氷が光の屈折により水平線から浮き上がったかのように見える現象。	

②網走の歴史・文化

観光資源	概 要	イメージ
博物館 網走監獄	「北海道開拓と監獄受刑者」をテーマとした天都山麓に位置する野外博物館。明治期の網走刑務所建造群を移築・復元して公開している。その内、2件8棟が国の重要文化財に指定されている。	
北海道立 北方民族博物館	東はグリーンランドのイヌイト(エスキモー)から西はスカンジナビアのサミ(ラップ)まで、広く北方の諸民族文化を紹介する博物館である。	
網走市立 郷土博物館	網走の豊かな自然と古代から現代に至る歴史の流れを展示解説している。昭和11年建設の洋風モダンな建築は、F・J・ライトに師事した田上義也氏の設計による。	
モヨロ貝塚館	史跡最寄貝塚内にある施設で、古代海洋狩猟民族モヨロ人(オホーツク文化人)の暮らし、遺跡出土品を展示・解説している。	

観光資源	概要	イメージ
永専寺山門	大正 11 年に移設された旧網走刑務所の正門。擬洋風建築の流れを継ぐ貴重な遺構であり、北海道行刑史上重要な施設となっている。	
ポンモイ柱状節理	オホーツク海と調和して美しい海岸景観を呈している安山岩の柱状節理は、マグマの複雑な様相を調べる上でも地質学上貴重な価値がある。	
網走市立美術館	高橋道雄や居串佳一など網走ゆかりの作家や、オホーツクに主題を求めた作家の作品を収蔵する美術館として知られている。	
網走神社	1812 年に近江商人の藤野家が網走川の河口に弁財天を祀る小祠を作ったのが始まりで、明治 41 年に現在地に社殿が造営された。北見国一の宮として由緒ある神社である。	

③網走のレクリエーション・体験

観光資源	概要	イメージ
天都山展望台・オホーツク流氷館	2015 年にグランドオープンしたオホーツク流氷館では、本物の流氷に触れたり、クリオネやフウセンウオなどを見ることができる。併設している展望台からは世界自然遺産・知床やオホーツク海を望むパノラマを楽しめる。	
網走流氷観光砕氷船おーら	流氷に覆われた海の中を氷を砕きながら約 1 時間のクルーズを楽しめる。時にはオオワシやオジロワシ、流氷の上で昼寝をするアザラシにも出会える。	
てんとらんど（道立オホーツク公園）	オートキャンプ場の他に、ファミリーで楽しめる大規模な屋外公園やパークゴルフ場、室内遊戯室のころひろばも人気である。公園からはオホーツク海や知床連山を見渡せる。	

観光資源	概 要	イメージ
ホーストレッキング	初心者や子どもにも体験できる乗馬コースがある。冬は流氷が接岸している海岸でも楽しめる。	
あばしりネイチャークルーズ	クジラやイルカ、海鳥を間近で観察する体験プログラムである。オホーツク海の豊かさと雄大さを体感することができる。	
網走市食品加工体験センター「みんぐる」	気軽に利用できる調理・加工の体験施設で、専門的な調理器具を使ったパン・味噌・うどん・パスタ・ソーセージなどの食品づくりの他、缶詰・瓶詰・レトルトなどで保存したりすることもできる。	
流氷硝子館	エコガラス工芸の制作、販売を実施している。制作体験も可能である。	
網走スポーツ・トレーニングフィールド	網走湖を見下ろす自然林の中にあるスポーツ施設で、広大な敷地内には、Jリーグやラグビートップリーグチームが合宿を行う、日本一と定評がある天然芝フィールドや野球場などの施設のほか、ゴーカートやおもしろ自転車を楽しめるレクリエーション広場がある。	
オホーツクシマリス公園	網走湖畔近くにあり、たくさんのシマリスを見ることができる癒しの場所として人気がある。	
スノーシュートレッキング	スノーシュー（西洋かんじき）をはいて、能取岬周辺や網走湖畔を散策し、オホーツクの冬の動物を観察できる。	

観光資源	概 要	イメージ
カヌー体験 (呼人半島探鳥ツアー)	カヌーに乗って、呼人半島まで行き、半島上陸後は、ガイドの解説でバードウォッチングが楽しめる。	
ワカサギ釣り	網走湖で氷上フィッシングが楽しめる。釣ったワカサギをその場で天ぷらにして味わうこともできる。期間は1月上旬～3月中旬。	
海釣り	観光遊漁船に乗って手ぶらでオホーツク海の海釣りを楽しむことができる。	
収穫体験	大曲湖畔園地では、初夏にアスパラガス、夏はミニトマト、秋はジャガイモ、トウモロコシなどの収穫を体験できる。	
潮干狩り	アサリの潮干狩り体験が能取湖でできる。西網走漁業協同組合の好意により、期間限定で一般開放されている。	
フルーツ狩り	天都山東側中腹にある果樹園で季節ごとに様々なフルーツ狩り（イチゴ、サクランボにはじまり、リンゴ、栗、梨など）ができる。	
ファットバイク	極太タイヤのファットバイクで、流氷を眺めながらのサイクリングや凍った湖の上でサイクリングを楽しめる。	

観光資源	概 要	イメージ
サイクリング	旧国鉄湧網線の廃線跡地を利用した風光明媚なオホーツクサイクリングロードなどでサイクリングを楽しめる。	
釧網本線	網走駅と東釧路駅を結ぶ鉄道路線で、2つの国立公園と1つの国定公園の中を走る車窓が人気である。オホーツク海に一番近い駅である北浜駅は、多くの旅行者が訪れる。	

④網走のイベント

イベント名	概 要	イメージ
あばしり オホーツク 流氷まつり	迫力満点の大雪像や繊細な意匠の氷像を見ることが出来る。また「流氷みこし」、地元団体のパフォーマンス、歌謡ショーなどを開催するほか、網走の味覚を味わえる。2月上旬に開催される。	
オホーツク 屋台村	2月上旬に開催される厳寒の屋外イベントで、会場内で炭火焼台を設置し、地元の美味しい食材をその場で焼いて食べることができる。	
春カニ合 戦 in 網走	5月下旬に開催され、流氷明けのカニをテーマに、茹で上げカニの限定販売会や、もちまきならぬ「カニまき」などが行われる。	
あばしり オホーツク 夏まつり	中心商店街が歩行者天国になり毎年1,000人が踊る「流氷おどり」や、市内の小・中・高生が参加する「音楽大行進」などが行われる。圧巻は迫力満点の「花火大会」で、7月下旬に行われる。	
あばしり 道の駅 夕市まつり	地元の農産物の販売や炭火焼、ビアガーデンを中心としたイベントで、道の駅「流氷街道網走」で7月下旬に開催される。毎日、日替わりで地元グループのコンサートやパフォーマンスが行われる。	

イベント名	概 要	イメージ
オロチョンの火祭り	北方系少数民族の先人を偲び霊を慰めるとともに、郷土の豊かな実りを祈願して開催されるイベントで、7月下旬に行われる。シャーマンが登場し、伝統に沿って厳粛に行われる。	
あばしり七福神まつり	9月上旬、地元特産品や全国各地の物産・味覚等を集めたイベントである。会場では、様々なステージイベントが行われるほか、市民が仮装した七福神宝船行列などがイベントを盛り上げる。	
能取湖さんご草祭り	9月中旬、能取湖の湖畔にひろがるサング草が真っ赤に色づく季節に、青空の下で深まりゆく秋の風情と味覚を楽しむお祭りである。能取湖でとれたばかりのホタテなどオホーツクの幸が香ばしく会場に立ち込める。	
オホーツク網走マラソン	網走刑務所の正門前からスタートし、オホーツク海や世界遺産である知床連山を眺め、絶景の能取岬を周り、満開のひまわりが咲く大曲湖畔園地にゴールするフルマラソン大会で、9月下旬に行われる。	
東京農業大学オホーツク収穫祭	東京農大の教職員と学生が一丸となって独自に作り上げる学園祭で、10月上旬に開催される。農大名物の野菜無料配布や大根踊り、工夫を凝らした模擬店、鮭のつかみ取りなどで盛り上がるユニークな学園祭である。	
A B A S H I R I バル	11月に開催される、網走市内の飲食店で秋の飲み・食べ歩きイベント。各店で網走食材を使用した創作おつまみをホタテ貝のお皿で提供される。	

⑤網走の食

名称	概要	イメージ
オホーツク網走ザンギ丼	北海道米のご飯の上に、網走産のオホーツクサーモンを天然の調味料である白魚醤油に漬け込んで揚げた「網走ザンギ」をのせた丼料理である。	
網走モヨロ鍋	新鮮なオホーツクの魚介類とすり身をオホーツク土器に見立てた鍋でいただく料理である。	
網走ちゃんぽん	雲仙市小浜のソウルフード「小浜ちゃんぽん」を網走産の食材でアレンジしたちゃんぽんである。	
網走ビール	網走にキャンパスを持つ東京農業大学生物産業学部の研究協力で誕生した地ビールである。	
エミュー	ダチョウについて世界で2番目に背の高いエミューの卵を使用したどら焼きやプリンなど、新たな地域資源として活用されている。	
オホーツクあばしり和牛	定められた基準をクリアした「オホーツクあばしり和牛」は、寒暖差の大きい北海道の自然と生産者の愛情に育まれて、とても軟らかく良質の味わいが自慢である。	

⑥網走の農産物

農産物名	概 要
春まき小麦	網走市の基幹作物の一つで、主に「春よ恋」を栽培している。パンや中華麺、パスタの原料となる。網走市内の小中学校の給食のパンは地域で生産された小麦が使用されている。
秋まき小麦	網走市の基幹作物の一つで、網走市では主に「きたほなみ」が栽培されており、うどん等の日本麺やケーキなどの原料となる。全道の小麦生産量の30%弱がオホーツク管内で生産されている。
ビール大麦	網走市ではサッポロビールとの契約栽培で、主に二条大麦の「札育2号」、「りょうふう」が栽培されている。
もち麦	ビール大麦の品種とは異なり、水溶性食物繊維β-グルカンが多く含まれている品種。近年、健康食品として注目されており、網走市ではもち麦の生産拡大を図ることとしている。
馬鈴しょ (じゃがいも)	網走市の基幹作物の一つで、その9割が澱粉用となっている。市内北浜地区にあるJAオホーツク網走の澱粉工場と、美幌町にある美幌地方農産加工農協連の澱粉工場に運ばれ、澱粉に加工されている。
てん菜(ビート)	網走市の基幹作物の一つで、砂糖の原料として栽培されている。別名“サトウダイコン”とも呼ばれ、寒冷な気候を好むため日本では北海道でのみ生産されている。
大豆	この地域の気候に適した作物の一つであり、比較的安定した需要が見込まれ、近年、輪作体系の一つとして作付面積・生産量は増加傾向にある。
小豆	網走産小豆は色も鮮やかで、近年、菓子業界からも注目されている。輪作体系の一つとして、生産量は増加傾向にある。
わさび	網走市内に加工工場を有し、西洋わさびといわれる品種を栽培している。昨今は労働力不足から生産者が減少しており、生産量の確保が課題となっている。
長いも	網走の特産品。唯一生で食べられる芋で、滋養強壮や疲労回復にも適している。網走市では、この長いもに含まれるディオスコリンの機能性に着目した研究や商品開発を進めている。
大根	冷涼で日照時間が長いこの地域に適した作物として栽培されてきた。堆肥を使い化学肥料や農薬を抑えた栽培を行っているが、近年、労働力不足から生産量は減少してきている。
ごぼう	大規模輪作の一つとして一部の地域で生産されている。野菜の中では食物繊維が豊富で、「網走モヨロ鍋」の具材としても使用されている。
玉ねぎ	冷涼なオホーツク地域は、玉ねぎの一大産地となっている。網走でも近年生産量が増加しており、玉ねぎの漬物も製造されている。
行者菜	行者ニンニクとニラを交配した新品種。見た目や食感はニラに近く、味や香りは行者ニンニクに近い。北海道では網走市が唯一の生産地として認められている。

⑧網走の水産物

水産物名	概 要
カニ	網走では、毛ガニ、ズワイガニ、タラバガニ、アブラガニ、イバラガニと5種類ものカニが水揚げされる。
しらうお	網走の活き粋き7珍の一つ。上品で淡白な味が身上の高級魚。道内ではほぼ100%が網走湖産。漁獲後には、飲食店で刺身や天ぷらなどで提供される。
しじみ	網走の活き粋き7珍の一つ。網走はしじみの漁獲量が全道一である。アサリ並みの粒の大きさと味の濃さが自慢である。
わかさぎ	網走の活き粋き7珍の一つ。網走湖は日本を代表するわかさぎの産地である。飲食店で天ぷらなどを味わえ、お土産には醤油で炊き上げた佃煮が有名である。
キンキ	網走の活き粋き7珍の一つ。特に延縄船で漁獲される「釣きんき」は、魚体に傷が付きにくく鮮度が高いためブランド高級魚として取り引きされている。ウスターソースをかけて食べる湯煮は、地元漁師の賄いがルーツと言われる網走ならではの逸品である。
クジラ	網走の活き粋き7珍の一つ。網走では大正時代から近代的捕鯨がはじまり、現在も市内の捕鯨業者が操業を続け、鯨文化・食文化が街に根付いている。
カラフトマス	網走の活き粋き7珍の一つ。「オホーツクサーモン」の愛称を持つカラフトマスは、その特徴的な体型や体色から「セツパリ」、「アオマス」などとも呼ばれ、地域によっては「ホンマス」とも呼ばれることがある。
スケトウダラ	網走の活き粋き7珍の一つ。主にすり身や珍味の加工原料として使われており、韓国等へチゲ鍋等の食材として生鮮出荷もされている。網走はこの「スケトウダラ」を原料とした『冷凍すり身』の発祥の地である。
ホタテ貝	稚貝放流後の3～4年間を自然の中で生活して大きく成長したホタテは、八尺と呼ばれる桁網で漁獲されて、港に水揚げされる。
サケ	網走の漁業生産額で第1位はサケである。放流後3～5年経つと、サケは生まれた川に戻ってくる。これらのサケは沿岸に仕掛けられた定置網で漁獲され、網走港に水揚げされる。

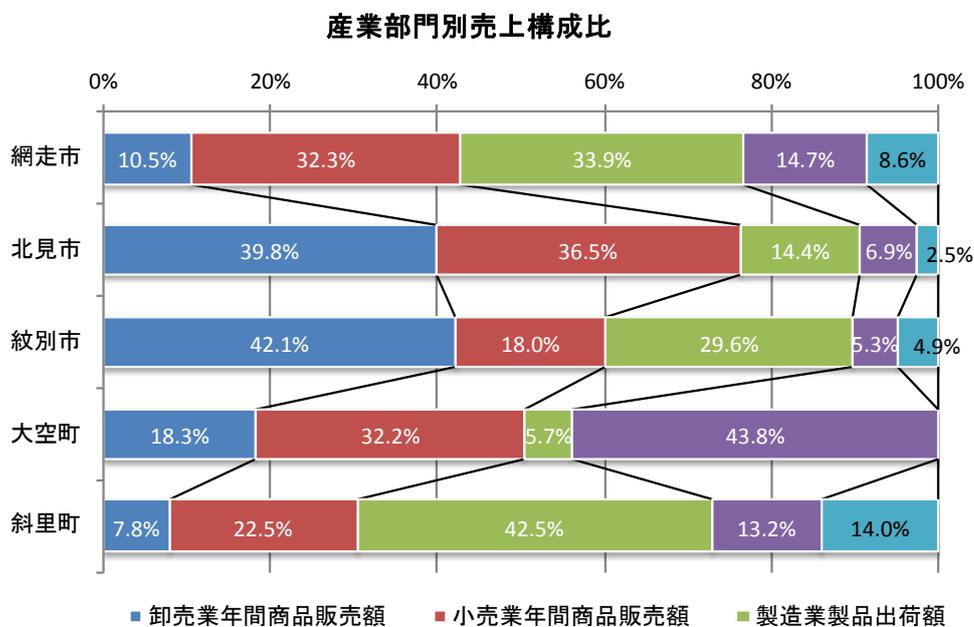
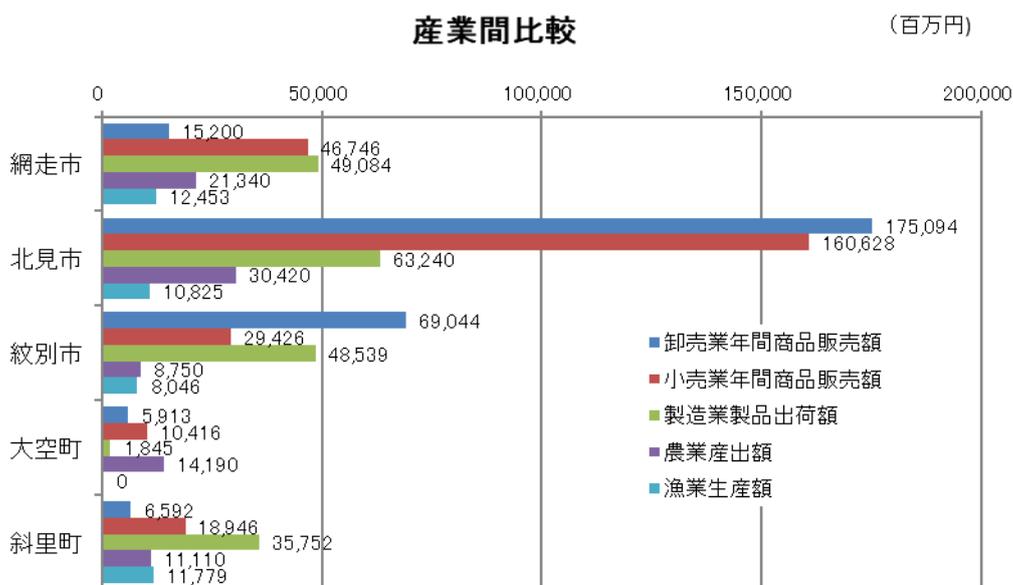
2-5. 網走市の産業構造

本計画の策定に先立ち、網走市の産業構造を明らかにするため、オホーツクエリアの主要な市町の産業構造を比較しました。

(1) 小売業と製造業の強い網走市

網走市の小売業販売額は北見市に次いで第2位の規模となっています。また、製造業の製品出荷額も北見市に次ぐ2番目の規模となっています。

各産業の構成比を見ると、網走市の中でも小売業と製造業が大きなウエイトを占めていることがわかります。

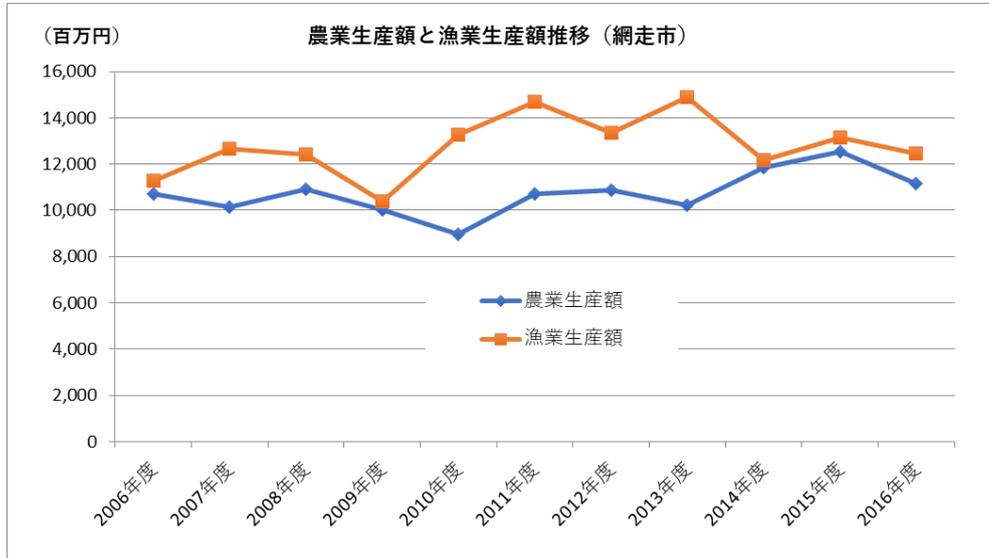


※出典：平成26年商業統計調査（経済産業省）
 平成28年工業統計調査（経済産業省）
 平成28年市町村別農業産出額（農水省）
 平成28年各市町統計書

(2) 漁業だけでなく、農業も強い網走市

網走市は魚が美味しく、獲れる魚種も多いことから漁業の町と見られる面がありますが、実際には漁業の生産額と農業の生産額の差はほとんどありません。網走の農産物の良さを認識してもらうことも、今後の観光振興における取組で必要となってきます。

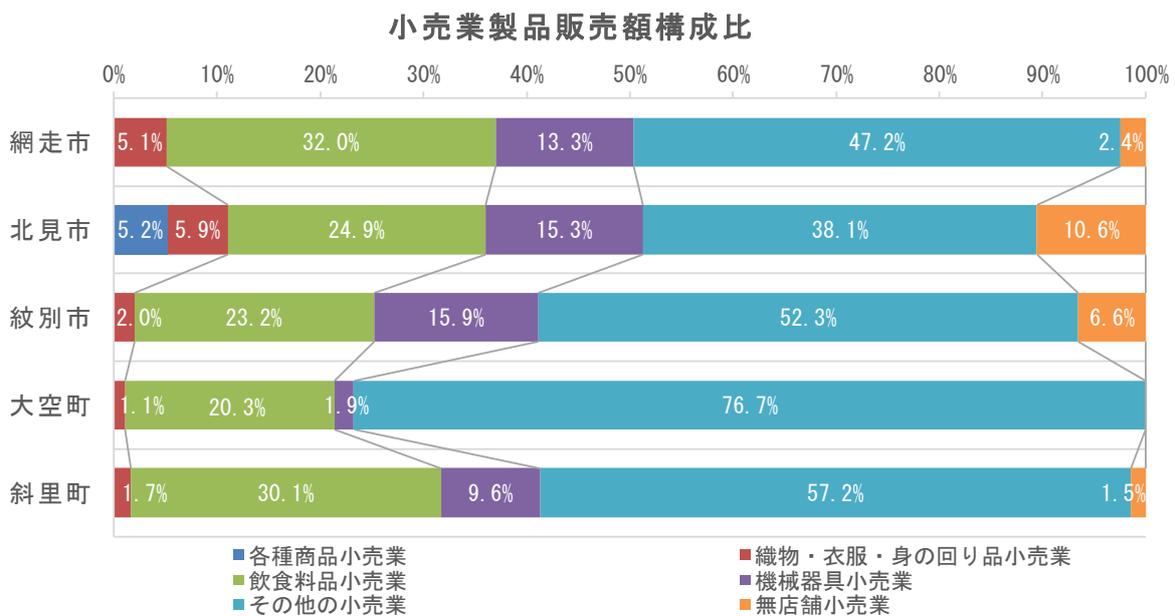
網走の主な水産物には、サケ・ホタテ・スケトウダラなどがあります。主な農産物は、てんさい・麦・馬鈴薯などが挙げられます。



※出典： 網走市農業統計・網走市水産統計（網走市）

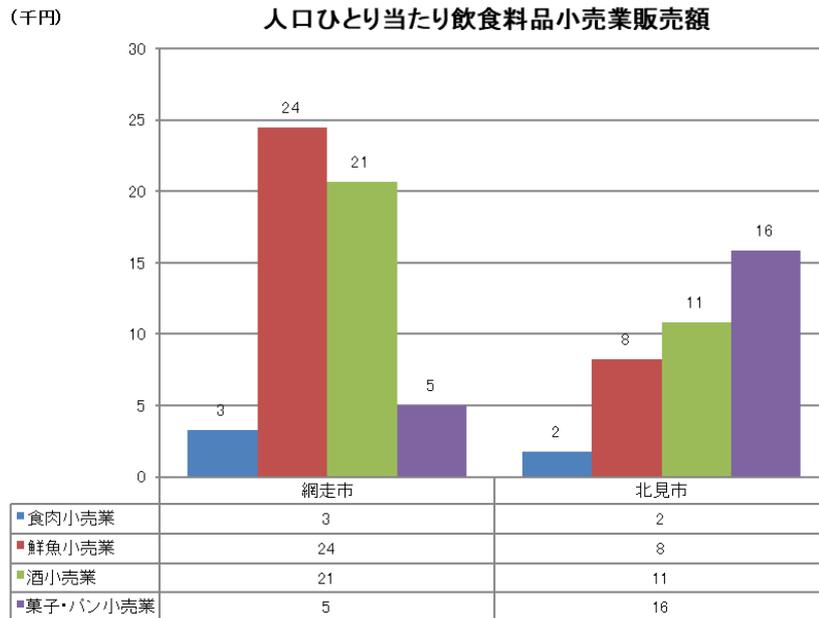
(3) 観光客にも支えられている小売業販売額

網走市の小売業の中で「飲食料品小売業」の占める割合がどの市町村よりも多く、小売業全体の中では 32.0%を占めております。



※出典： 平成 26 年商業統計調査（経済産業省）

飲食料品小売業の人口ひとり当たりの売上を北見市と比較すると、網走市では「鮮魚小売業」や「酒小売業」の規模が大きく、居住人口以外の観光客等による消費が大きいものと推量されます。

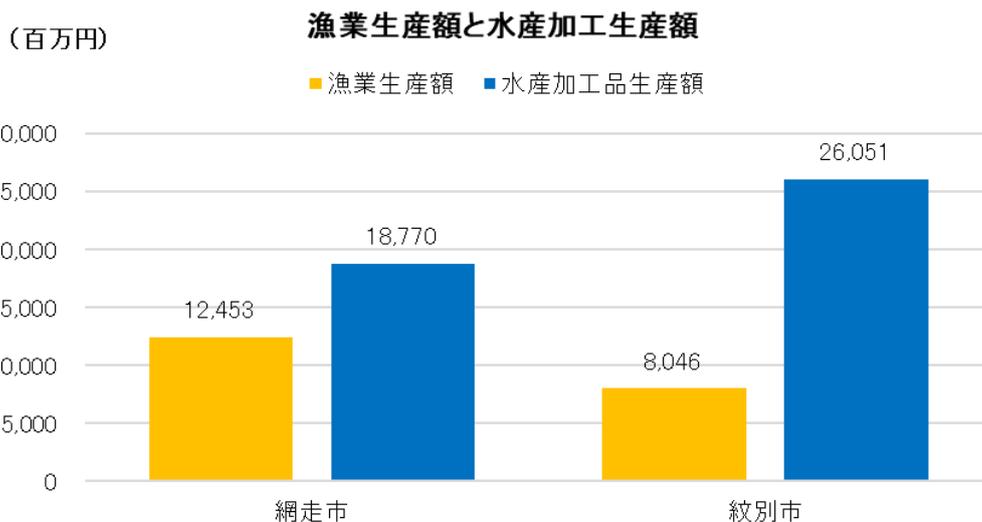


※出典：平成26年商業統計調査（経済産業省）

(3)加工業の今後に期待

紋別市との比較では網走市は漁業生産額に比べて水産加工生産額は少なく、加工により付加価値を高めることができる可能性を感じさせます。

さけやかになど漁獲量が減り、その単価も周辺地域と比較して低いことから、冷凍食品以外の加工商品の割合を増やして付加価値を増加させる方向を目指すことも必要と思われます。



※出典：平成28年網走市統計書/紋別市統計書